

城山公園再整備基本構想(案)

令和2年3月



長野市

目 次

第1章 城山公園の基本構想

1 計画の背景	3
2 コンセプトと整備方針	5
3 ゾーニング	6
4 ゾーニングのイメージ図	8
5 交通の考え方	10
6 防災の考え方	11
7 段階整備の考え方	12
8 管理運営の考え方	16
9 今後のスケジュール	18

第2章 考え方の整理

1 前提条件	19
2 城山公園の施設別の方向性	19
3 基本的な考え方	20
4 現公園と基本構想の比較	22



第1章 城山公園の基本構想

1 計画の背景

城山（じょうやま）公園は、長野駅から北に2kmほどの場所に位置し、国宝善光寺の東隣に広がる面積約13haの本市の総合公園¹⁾です。

明治33年に開設した市内で最古の公園であり、明治41年に開催された一府十県連合共進会をはじめとしてこれまで3度にわたって博覧会を開催するなど、文化産業の中心地としてにぎわいを見せてきました。

園内には噴水、プール、美術館、動物園、少年科学センター、テニスコートなど様々な施設があり、市民のレクリエーションの場となっています。

また、豊かな緑に囲まれた公園は、春は桜の名所としても知られており、四季を通じて市民の憩いの場となっています。

しかし、園内の多くの施設は老朽化や非耐震構造などの問題を抱えており、今後の公園施設のあり方について検討しなければならない時期を迎えています。

また、築50年を迎えた信濃美術館がこのほど全面改築することに伴って、同敷地の公園部分についても美術館と一体的な再整備に着手しています。

このように公園一帯の環境が変化していることを1つの契機として、公園の再整備に向けた計画を立てることとしました。

計画の策定にあたっては、これからの財政状況や少子高齢化に伴う人口構造の変化など、社会状況の変化がもたらす公園への影響を見据えながら、専門的かつ多角的に見直し作業を行うために、城山公園再整備検討委員会を組織して、公園づくりの土台となる基本構想をまとめます。



城山公園 2016年9月撮影

¹⁾ 総合公園とは、都市公園の一種で都市基幹公園に分類され、都市住民全般の休息、鑑賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする公園で、都市規模に応じて1箇所あたり面積10～50haを標準として配置します。



次の世代へ *since 1900*

城山公園のかつてのシンボル 噴水と花時計

基本構想の内容

城山公園は長い年月をかけて現在の姿になっており、時代背景に合わせて多くの施設を整備していることから、公園内には種々の施設が点在しています。そこで、公園の再整備に向けては、まずは基本となる公園の骨子をまとめて、再整備の道すじとなるような公園の目標像を明確に示します。

本基本構想（以下「本構想」という）では、50年先の将来を見据えた公園のコンセプトと整備方針を示すとともに、ゾーニング、交通、防災、段階整備、管理運営の考え方をまとめます。

2 コンセプトと整備方針

(1) コンセプト

文化と芸術と交流の杜

城山公園は開設からまもなく120年が経とうとしています。昔から人々を惹きつけてきた公園がこの先も愛され親しまれ、そして誇れる公園として継いでいけるように、50年先を見据えたコンセプトを示します。

(2) 整備方針

コンセプトをもとにして統一感のある公園づくりを行っていくために3つの整備方針を立ち上げます。

文化と芸術の創造

これまで文化的な活動の場としての役割を担ってきた経過から、これからも文化と教養を育む場とするとともに、信濃美術館と東山魁夷館を通じて芸術の拠点性を高めます。

主な取り組み 噴水広場、美術館、文化イベント、学びの場、野外彫刻

レクリエーション機能の充実

子どもからお年寄りまで誰もがいきいきと楽しく過ごせるような憩いの場とするとともに、善光寺に近い立地を活かして観光客も楽しめるような交流の場を提供します。

主な取り組み 交流施設、飲食ブース、多目的広場、ジョギングコース

みどり豊かな美しい公園の育成

公園内の樹木を大切に保全しながら豊かな緑を育てていくとともに、良好な景色と眺望を活かして善光寺周辺の景観と調和する美しい公園を造ります。

主な取り組み 大樹の育成、桜の育成、景観の醸成

3つの強化項目

城山公園の再整備にあたって公園機能の強化項目を定めます。

- ・防災機能の強化
- ・駐車場の整備
- ・アクセス性の向上

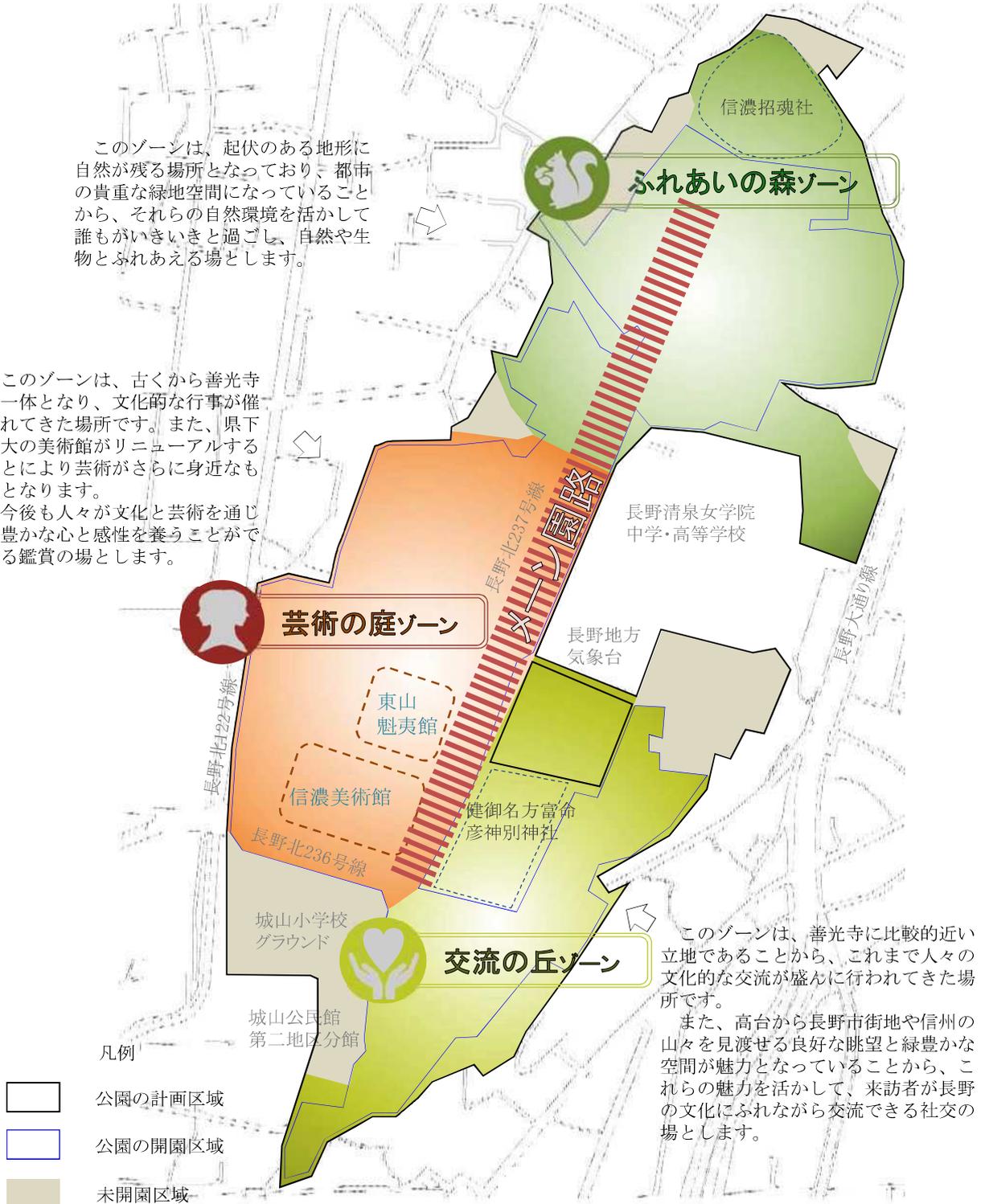
3 ゾーニング

城山公園がもっている特徴や立地条件などを踏まえて、公園を3つの大きなゾーンに分けます。各ゾーンには整備方針に基づいたテーマを持たせて、そのテーマに沿った形で公園整備を進めていくことで、まとまりがあって利用しやすい空間をつくります。そして、公園の中心道路をメイン園路として位置付けて、3つのゾーンを結ぶことで公園としての一体感を高めます。

このゾーンは、起伏のある地形に自然が残る場所となっており、都市の貴重な緑地空間になっていることから、それらの自然環境を活かして誰もがいきいきと過ごし、自然や生物とふれあえる場とします。

このゾーンは、古くから善光寺と一体となり、文化的な行事が催されてきた場所です。また、県下最大の美術館がリニューアルすることにより芸術がさらに身近なものとなります。

今後も人々が文化と芸術を通じて豊かな心と感性を養うことができる鑑賞の場とします。



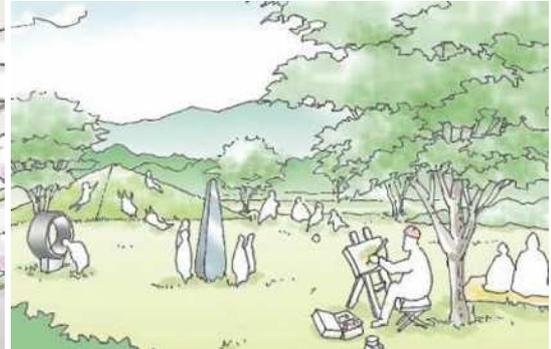
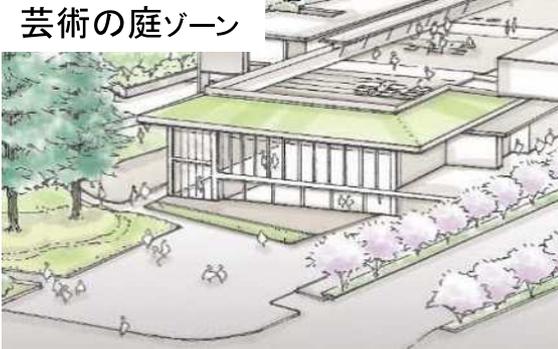
ふれあいの森ゾーン

《想定施設のイメージ》

- ・多目的広場
- ・動物ふれあい広場
- ・サイエンスの森
- ・屋内遊具施設
- ・飲食ブース
- ・散策路



芸術の庭ゾーン



《想定施設のイメージ》 美術館、噴水広場、文化の広場、屋外ステージ、野外彫刻



交流の丘ゾーン

《想定施設のイメージ》

- ・観光交流施設
- ・文化情報センター
- ・飲食施設
- ・休憩テラス
- ・見晴らし施設

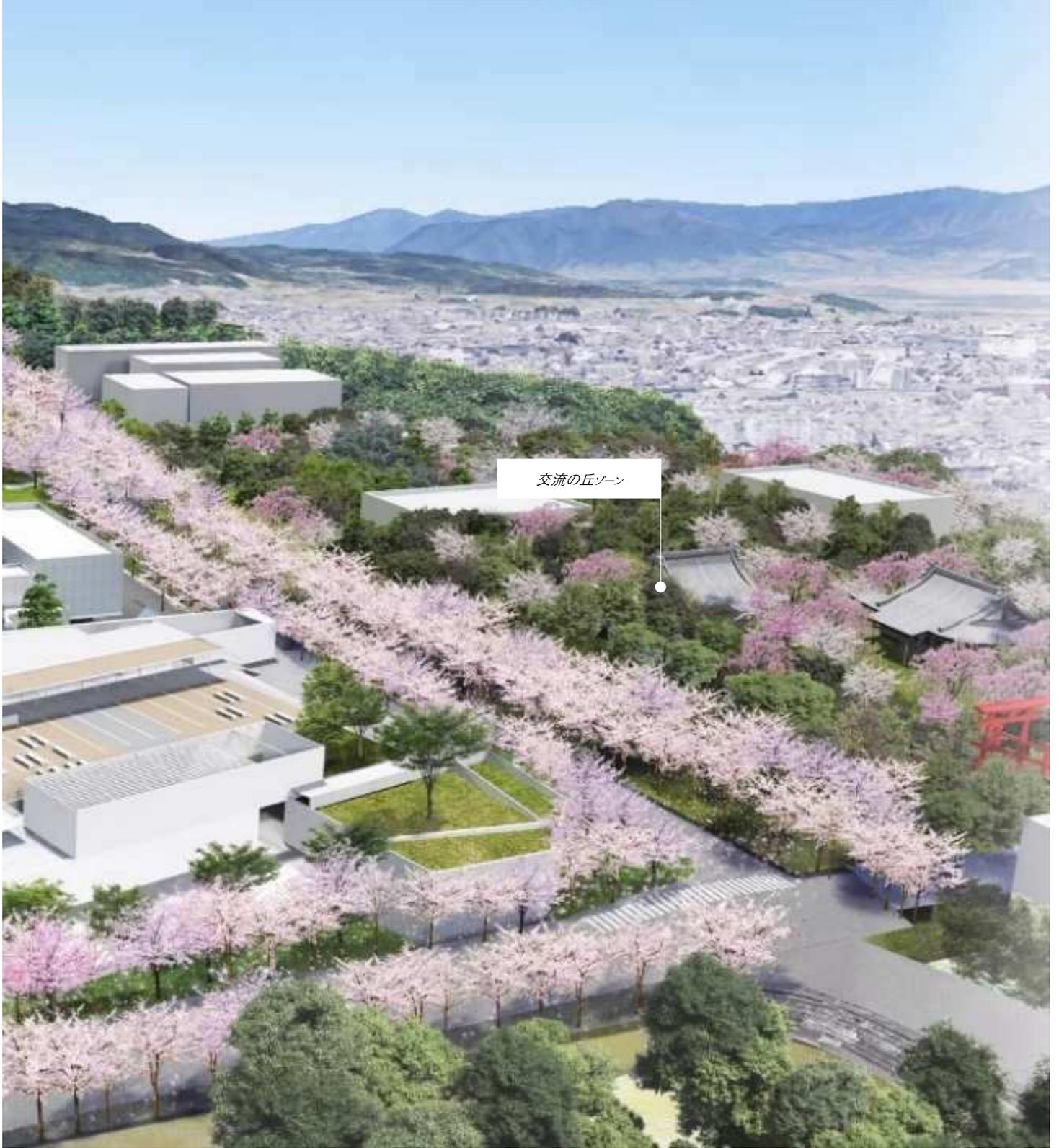
メイン園路



桜で飾られたプロムナードは公園の中心軸となり、各ゾーンをつなぎながら公園の一体感を高めます。

4 ゾーニングのイメージ図

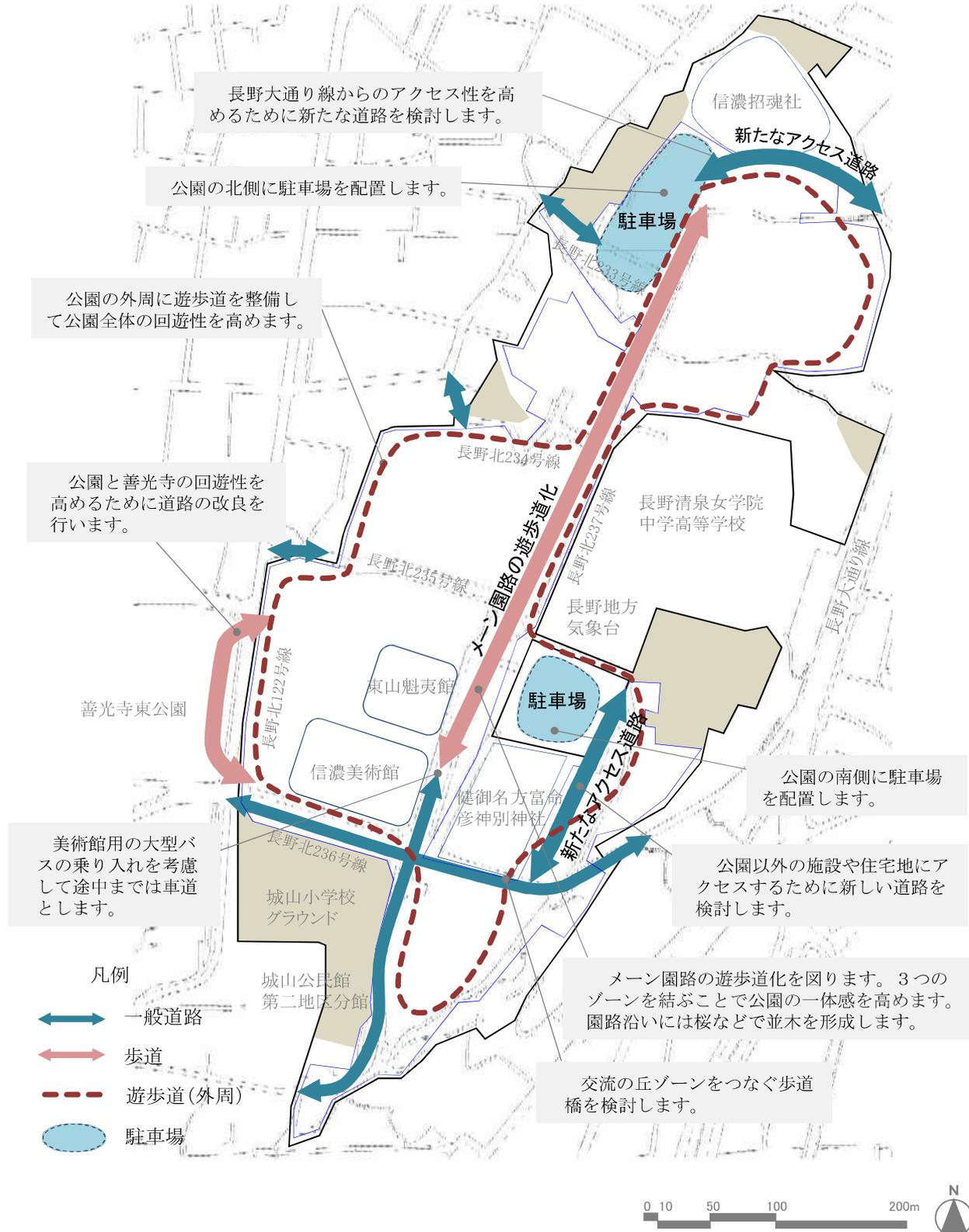




5 交通の考え方

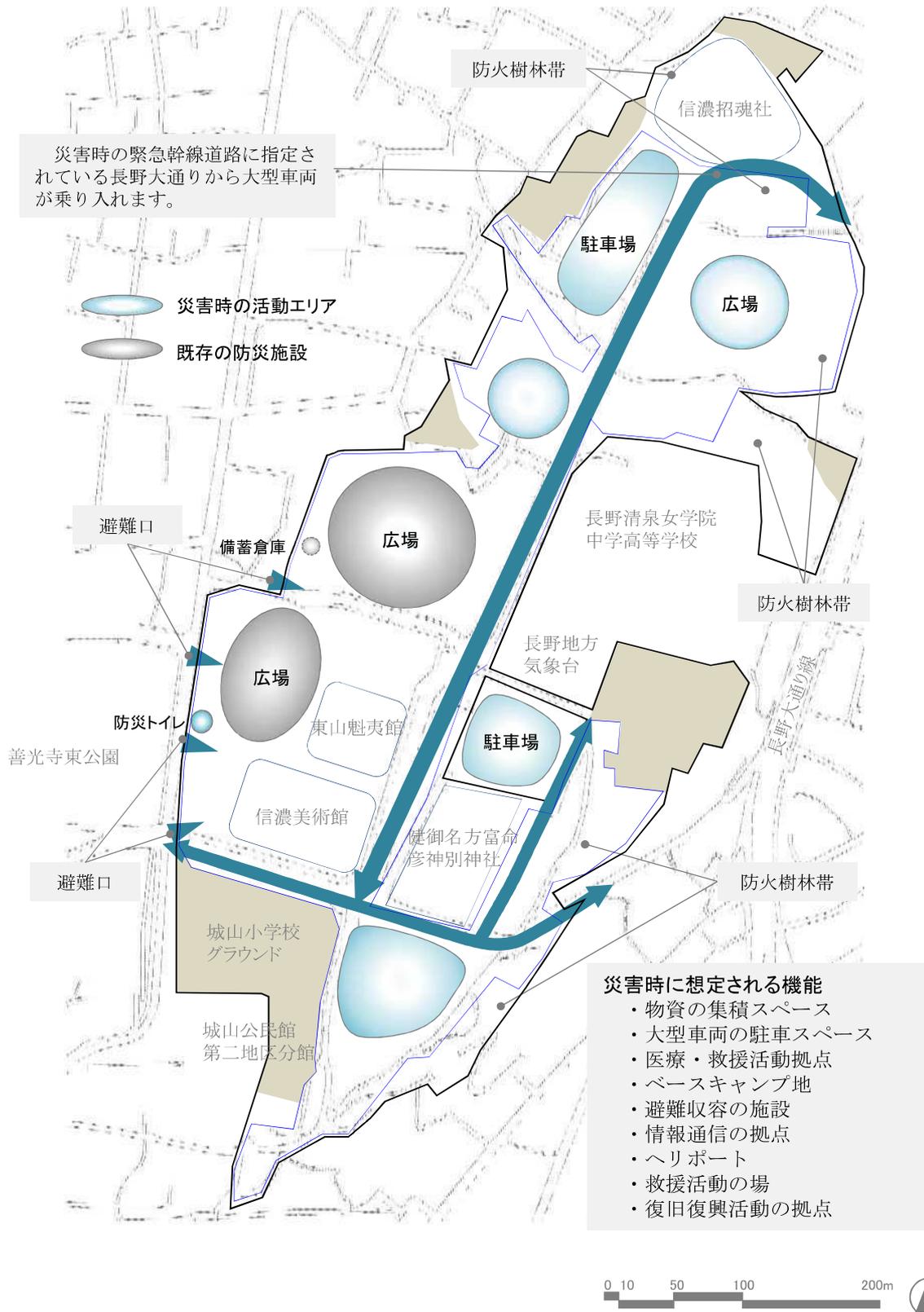
城山公園が抱えている交通上の課題としては、利用者の駐車場が不足していることと、公園内にある道路によって公園が分断されていることが挙げられます。これらの課題を解消するために交通体系の見直しを行います。

主な見直し内容としては、公園の北と南に新たなアクセス道路と駐車場を配置し、さらには公園の中心を通っている道路をメイン園路に位置付けて遊歩道化を図ります。



6 防災の考え方

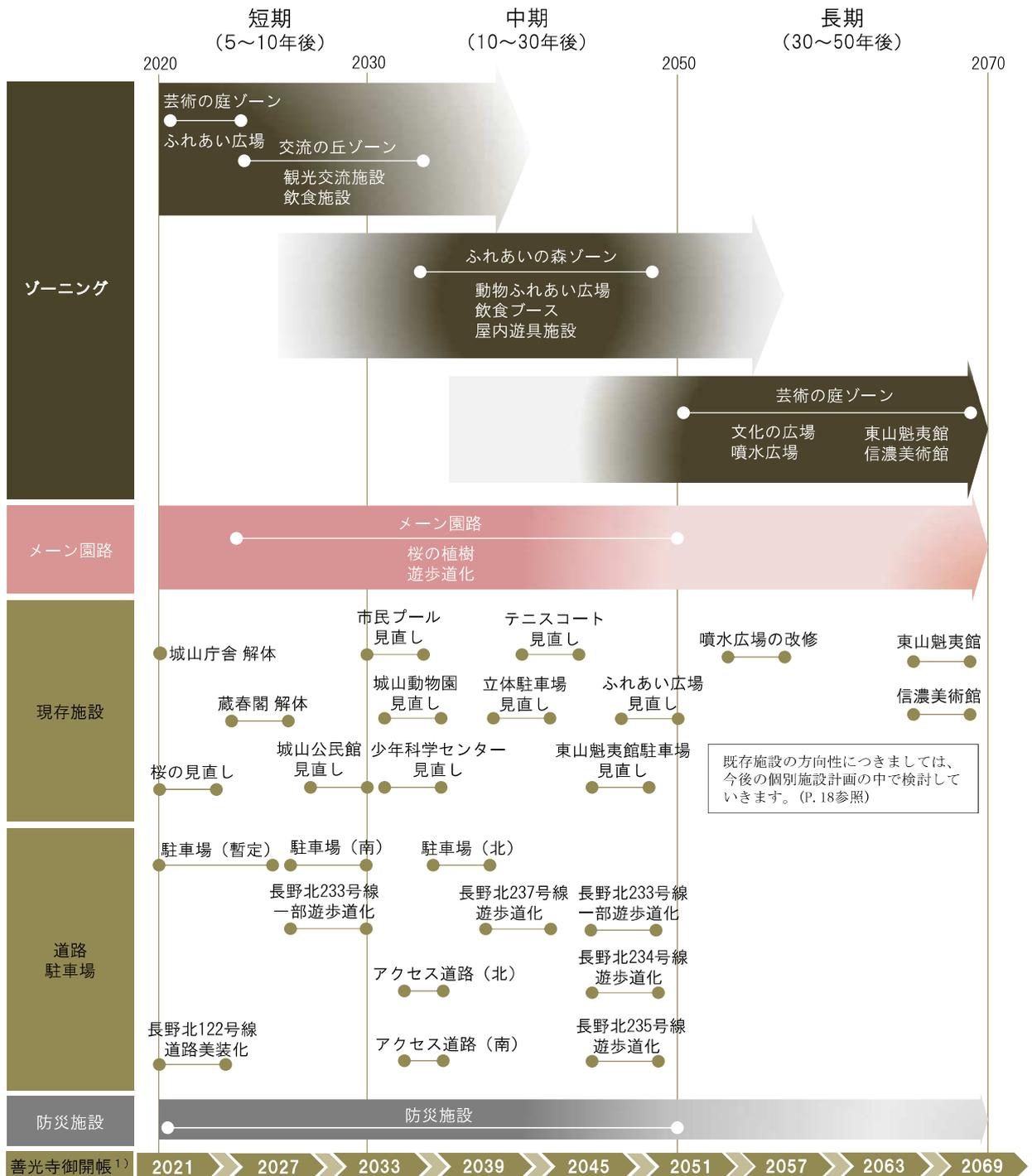
城山公園とその周辺は、長野市地域防災計画によって広域避難地に位置付けられていることから、広域避難地として想定される防災施設と、災害時に利用可能となるエリアの整理をします。



7 段階整備の考え方

公園内にある施設は整備された時期が異なっているため、更新の時期を段階的に迎えることになります。したがって、一斉に再整備に取り掛かるのではなく段階的に着手していく必要があります。

そこで、現存施設の残耐用年数や新たな整備の優先度に着目して全体期間を3つに分割し、各段階において公園として有すべき機能を保持しながら順次整備していきます。

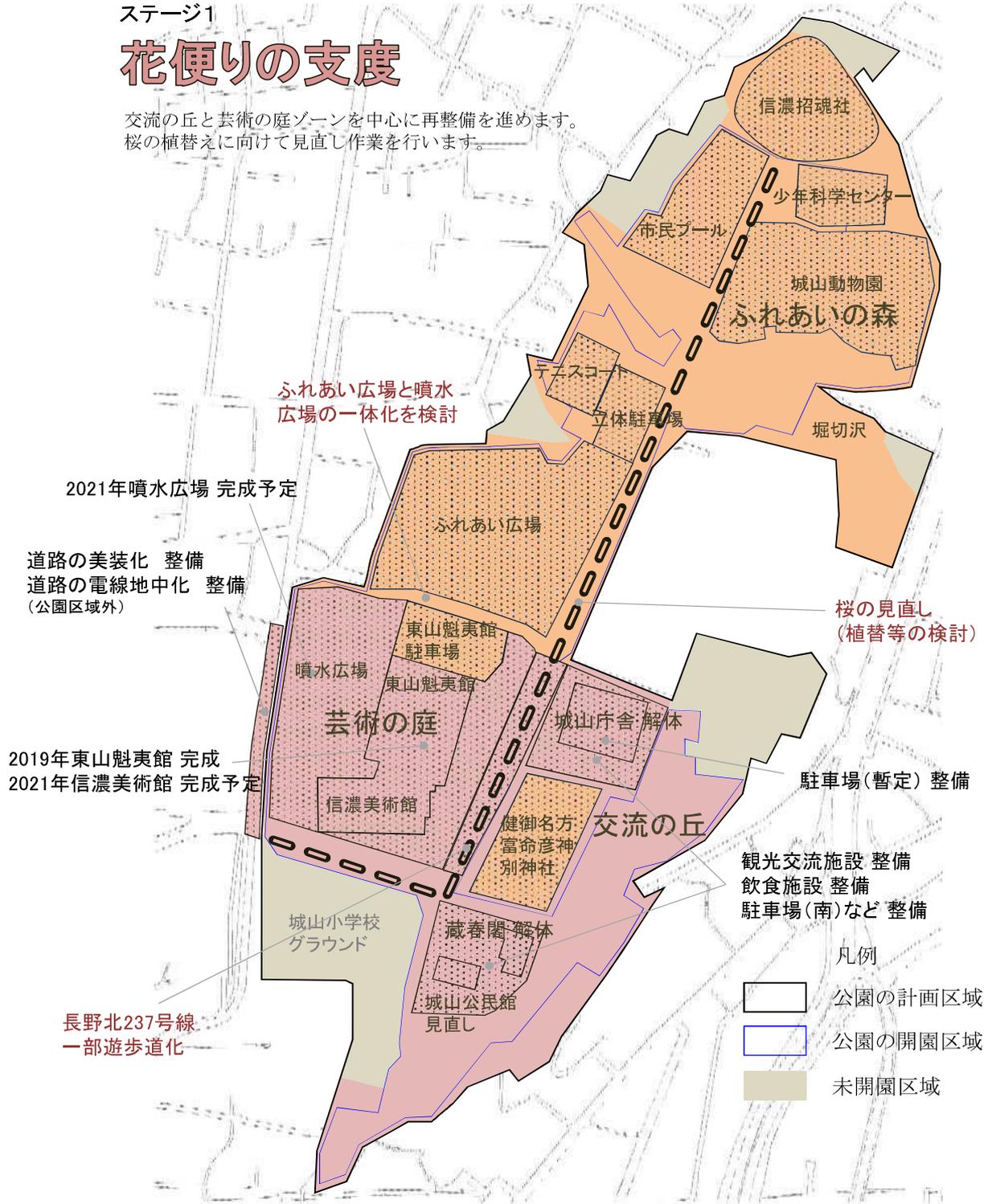


¹⁾ 善光寺御開帳とは、数え年で7年に一度行われる盛儀で、秘伝である御本尊の御身代わり「前立本尊」を本堂にお迎えし、約2ヶ月にわたって行う荘厳な行事です。これまで城山公園は、善光寺御開帳に時期を合わせるように整備事業を行ってきており、今後も整備時期の目安としています。

ステージ1

花便りの支度

交流の丘と芸術の庭ゾーンを中心に再整備を進めます。
桜の植替えに向けて見直し作業を行います。



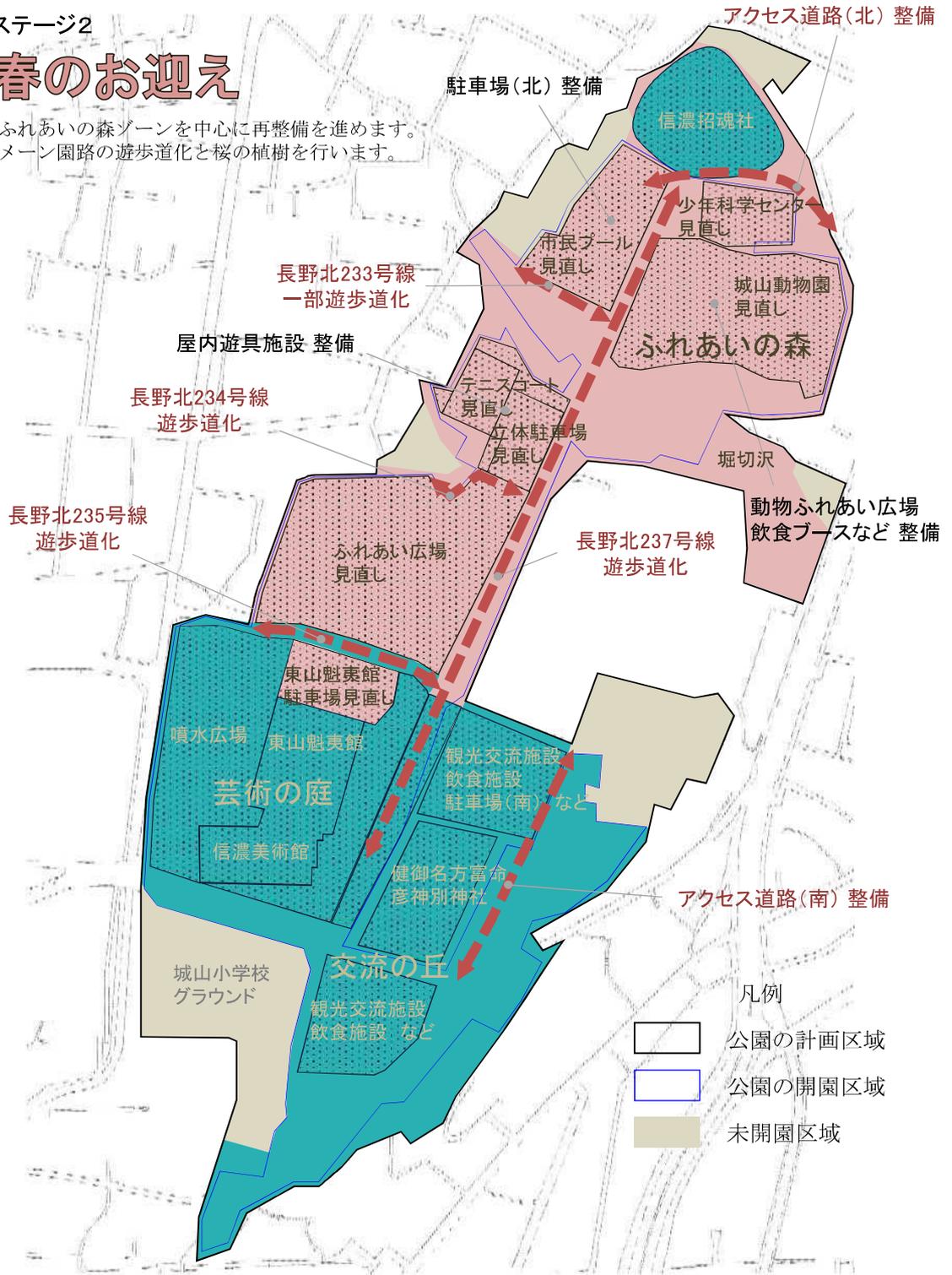
再整備エリア 既存エリア(利用可能)



ステージ2

春のお迎え

ふれあいの森ゾーンを中心に再整備を進めます。
メイン園路の遊歩道化と桜の植樹を行います。



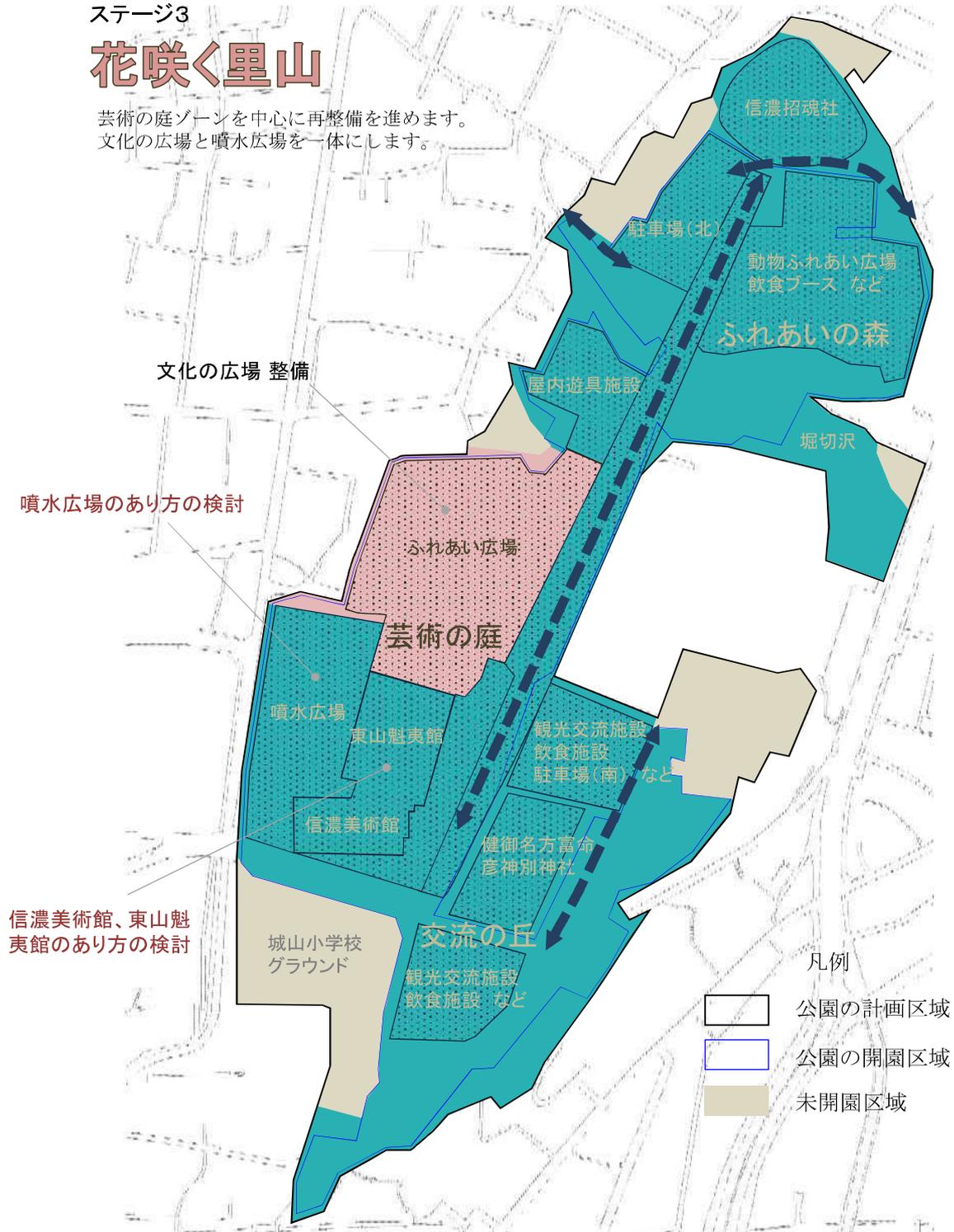
再整備エリア 完了エリア



ステージ3

花咲く里山

芸術の庭ゾーンを中心に再整備を進めます。
文化の広場と噴水広場を一体にします。



文化の広場 整備

噴水広場のあり方の検討

信濃美術館、東山魁夷館のあり方の検討

凡例

- 公園の計画区域
- 公園の開園区域
- 未開園区域

再整備エリア 完了エリア



8 管理運営の考え方

城山公園は、段階的に事業に着手していくことから事業完了までに長期間を要することとなり、本構想を継続的に実施していくためには、管理運営についても同時に検討する必要があります。

そこで、管理運営を、保全、利活用、運営の3つに分けて考え方をまとめます。

(1) 保全

①自然環境の保全

公園内の緑地は、中心市街地に残っている貴重な自然環境であることから、地域の里山としての機能を付加しながら、信濃招魂社や健御名方富命彦神別神社の社寺林とともに既存の樹木を積極的に保全していきます。

②景観の保全

城山公園の景観を守り育てていくために、善光寺を中心とした歴史的な景観と、周囲の山々からなる自然景観の両方に調和していくことが大切となります。彩り豊かで四季を感じる樹木の育成や、桜の名所としての景観を保全します。

(2) 利活用

①イベントの提供

公園の空間を有効に使うことで集客力の高い文化的イベントや体験プログラム等を計画して、公園全体のにぎわいを創出します。

②関連施設との連携強化

隣接する善光寺の参拝者を誘客するために行催事の連携を図ります。また、信濃美術館との連携を強化します。

- ・善光寺御開帳、びんずる市などと連携
- ・芸術の祭典など連携プログラムの推進

(3) 運営

①城山公園再整備協議会(仮称)の設立

本構想を継続的に実施していくために、事業化に向けた検討組織を設立します。ここでは整備内容を検討するほか、管理運営に関することについても協議します。行政、市民、専門家が連携することにより、公園の長期構想を一元的に推進することが可能となり、公園全体の統一感を高めることができます。

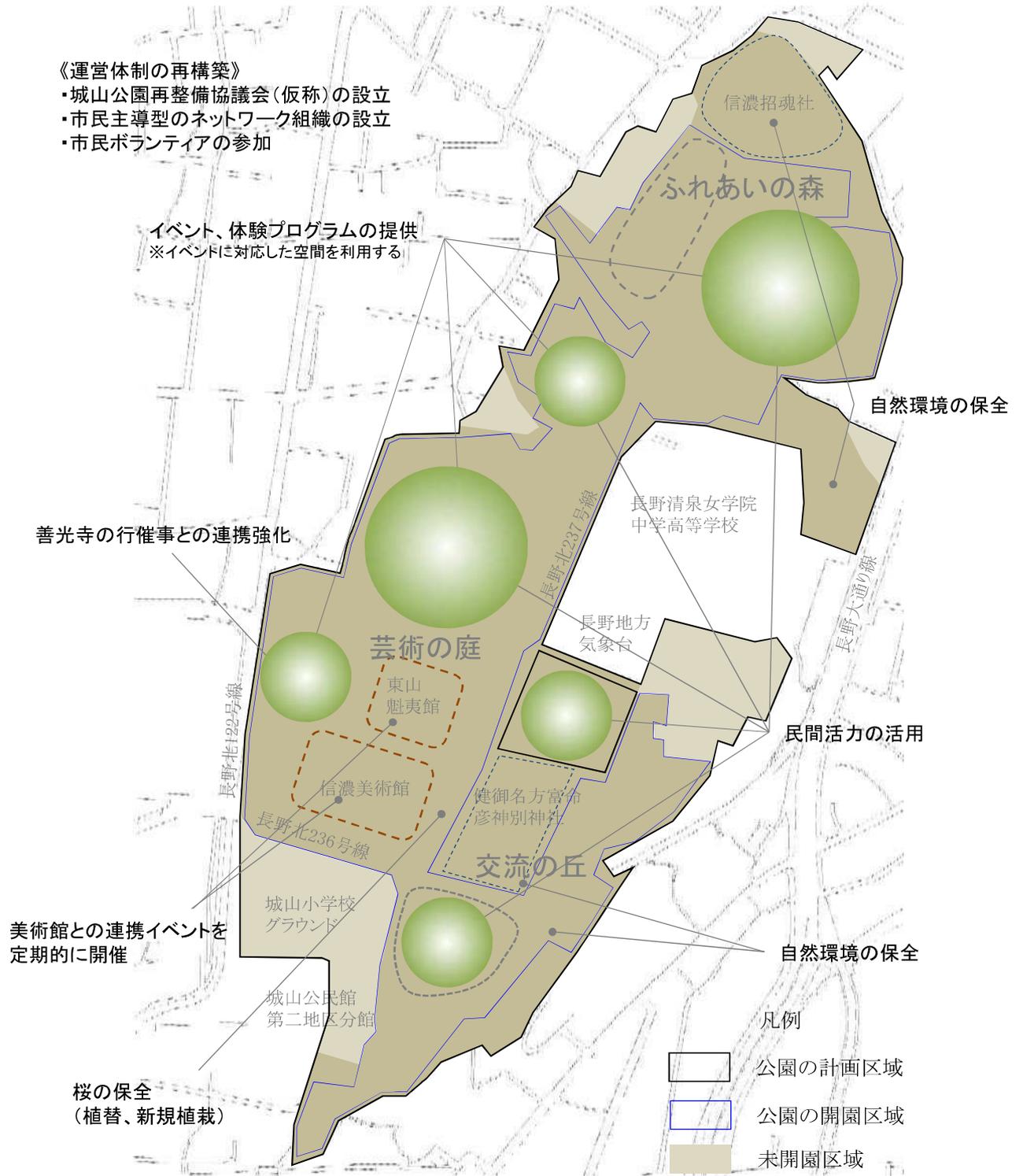
②運営体制の再構築

近年では公園の運営に民間活力を導入する動きが高まっています。本構想を実現するためには、民間のノウハウを活用した公園管理の効率化や公園施設の集約・複合化などを図りながら公園を取り巻く環境の変化に対応した管理運営を行うことが不可欠になります。

さらには、市民による事業参加を促進させるために行政と協働による市民主導型のネットワーク組織を構築することで、地域と一体となって持続可能な管理体制を整えます。

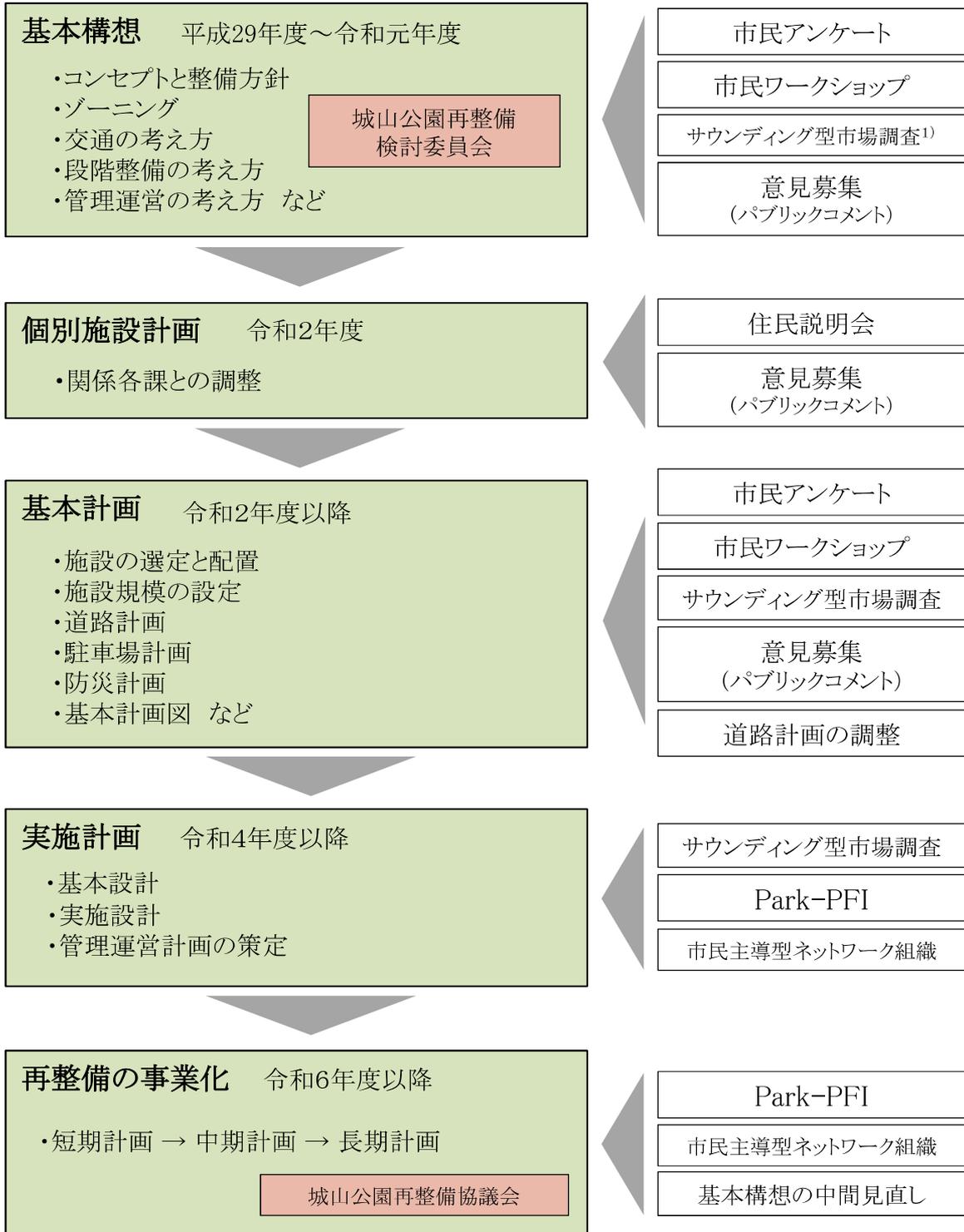
- ・民間活力 (Park-PFI制度¹⁾ など) を積極的に活用
- ・市民主導型のネットワーク組織の設立
- ・市民ボランティアの参加 (桜の管理や案内ガイドなど)

¹⁾ Park-PFI制度とは、平成29年の都市公園法改正により新たに設けられた制度で、飲食店や売店等の公園利用者に利便の向上に資する公衆対象公園施設の設置と、当該施設から生じる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備、改修等を一体的に行う者を公募により選定する公募設置管理制度です。



9 今後のスケジュール

本構想から再整備の事業化までのおおまかな流れは次のとおりです。



¹⁾ サウンディング型市場調査とは、市有地などの有効活用に向けた検討にあたって、その活用方法について民間事業者から広く意見や提案を求めて、対話を通じて市場性等を把握する調査です。

第2章 考え方の整理

1 前提条件

- (1) 本構想の検討範囲は、公園の開園区域としますが、公園の機能上で検討が必要な場合は未開園区域も含めるものとします。
- (2) 長野市緑を豊かにする計画（平成31年4月改定）では、市全体の都市公園の見直しを行うことを計画しているため、その中で城山公園の計画決定の範囲を検討します。
- (3) 公園の道路交通については、市街地交通網に影響することから、本構想では公園範囲内を対象とします。
- (4) 関係各課で検討している公共施設マネジメント¹⁾の方向性を踏まえて検討します。
- (5) 長期構想となることから中間年次において本構想の見直しを行うこととします。

2 城山公園の施設別の方向性

城山公園の施設別の方向性は次のとおりです。この方向性に基づいて、令和2年度に策定予定となっている個別施設計画の中で各施設の在り方を具体化していきます。

施設名	担当部局	方向性（令和元年12月23日現在）
城山公園全体	公園緑地課	・本構想の考え方に基づき担当部局で方向性を判断する。 ・基本構想策定 令和元年度中
城山動物園	公園緑地課	・本構想の考え方に基づき担当部局で方向性を判断する。 ・公共施設等総合管理計画「公園一帯の再整備検討の中で在り方を検討する」
市民プール	スポーツ課	・本構想の考え方に基づき担当部局で方向性を判断する。 ・統廃合第二期において北部か城山のどちらかを存続させる。
テニスコート	スポーツ課	・本構想の考え方に基づき担当部局で方向性を判断する。
少年科学センター	家庭地域学びの課	・本構想の考え方に基づき担当部局で方向性を判断する。 ・長野市青少年健全育成審議委員会で検討する。
ふれあい広場	公園緑地課	・本構想の考え方に基づき担当部局で方向性を判断する。
噴水広場	公園緑地課	・公園の解体 平成31年4月から ・公園の整備 平成31年4月から令和2年度末まで
信濃美術館 東山魁夷館	長野県	・建物の解体 平成31年3月末まで ・改築の工事 平成31年4月から令和2年12月まで
蔵春閣	家庭地域学びの課	・本構想の考え方に基づき担当部局で方向性を判断する。 ・閉館 平成30年3月31日 ・取り壊し時期は未定（解体は決定）
城山公民館	家庭地域学びの課	・本構想の考え方に基づき担当部局で方向性を判断する。 ・耐震化済み 明確な予定はない
城山分室 （公園区域外）	庶務課	・本構想の考え方に基づき担当部局で方向性を判断する。 ・建物の解体 令和元年11月から令和2年6月頃まで ・暫定駐車場の整備期間 令和2年7月頃からは令和2年度末まで
立体駐車場	公園緑地課	・本構想の考え方に基づき担当部局で方向性を判断する。

¹⁾ 公共施設マネジメントとは、公共施設の現状と課題を踏まえ、施設保有量の適正化や長寿命化など、公共施設を適正に維持管理し、有効活用を図る取り組みである「公共施設マネジメント」にかかる基本的な考え方や取り組みの方向性をまとめたものです。

3 基本的な考え方

城山公園の歴史や現状や課題を洗い出す中で、再整備の基本的な考え方を整理し、城山公園のコンセプトをまとめます。

公園の歴史的な特徴

項目	内容
知名度が高い	城山動物園、少年科学センター、蔵春閣など幅広い世代に利用される。
シンボル性	本市で最も古い公園で、噴水は100年以上の歴史がある。
情報の発信地	市民の集会や交流の場として使われてきた。
芸術の発信地	信濃美術館と東山魁夷館があり県内外から訪れている。 野外彫刻が設置されている。
展望が良い	蔵春閣の屋上からの眺望は良好である。
自然環境	信濃招魂社、健御名方富命彦神別神社や堀切沢には豊かな自然がある。
桜の名所	園内道路沿いに桜並木が整備され、桜の名所となっている。
レクリエーション	城山動物園や市民プール、芝生広場などが整備される。
科学と生物	少年科学センターや城山動物園、ホタル水路が整備される。
健康増進	テニスコート、野球場、バレーボールコートなどが整備された。
おもてなしの場	かつては貴賓館があって、おもてなしの場として使われていた。

現状の課題

(市民アンケート、市民ワークショップの意見より)

項目	内容
施設の老朽化	公園内施設の老朽化、非耐震化 桜の老木化
道路による分断	一般車の通行による利用者の安全確保が課題
アクセスが不便	公共交通機関や主要道路からのアクセス性が低い。
駐車場不足	休日を中心に駐車場が不足、大型バス専用の駐車場がない。
動線の混在	公園の公共動線と居住者の生活動線が混在している。
魅力の不足	公園周辺での利用者の滞在時間が短い。

公園にある顕在的なポテンシャル

項目	内容
立地と眺望	<ul style="list-style-type: none"> ・参拝者が年間600万人を超える国宝善光寺に隣接している。 ・川中島の戦いで上杉謙信が陣を置いた地として知られており、市街地や山々を一望できる高台に位置する。
豊かな自然	<ul style="list-style-type: none"> ・昔は公園一帯が里山であったことから豊かな自然が残る。
シンボル性	<ul style="list-style-type: none"> ・公園周辺は文化の中心地でシンボリックな場所となっている。 ・城山公園は多くの世代に利用されており愛着がある。

公園にある潜在的なポテンシャル

項目	内容
サウンディング調査	<ul style="list-style-type: none"> ・賑わいの創出のための新たな収益施設の市場性の有無 ・利用者ニーズに応じた新たな活用アイデアの聴取など

上位関連計画における城山公園の位置付け

項目	内容
長野市都市計画マスタープラン	<ul style="list-style-type: none"> ・都市の貴重な緑地空間の保全 ・広域的な文化、芸術、レクリエーション、防災の拠点 ・城山公園一帯の自然環境を活用
長野市緑を豊かにする計画	<ul style="list-style-type: none"> ・文化、芸術、レクリエーション ・防災拠点として活用 ・桜の名所となる景観の保全 ・ユニバーサルデザインや防犯に配慮した誰もが安全で安心な公園
長野市地域防災計画	<ul style="list-style-type: none"> ・広域避難地に指定、重要な防災拠点
長野市観光振興計画	<ul style="list-style-type: none"> ・善光寺界隈の周遊コンテンツを開発 滞在時間を延ばす ・善光寺～城山公園～信濃美術館の周遊促進
第二次長野市環境基本計画	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然環境の保全 ・低炭素社会の実現

※城山公園は上記関連計画のほか、SDGs¹⁾の理念に基づいた公園計画を立てていきます。

■コンセプトの意義

歴史や文化を伝える

- ・先人が築いてきた公園への思いを次の世代に繋げていく。
- ・信濃美術館と善光寺とともに文化芸術の拠点としていく。
- ・身近な憩いの場、集いの場、レクリエーションの場とする。

公園の目標像

- ・50年先の公園の将来像を見据える。

¹⁾ SDGsとは「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称です。SDGsは平成27(2015)年9月の国連サミットで採択されたものです。(詳しくは参考資料編に記載してあります)

4 現公園と基本構想の比較

現公園		
コンセプト	—	
ゾーニング 交通の考え方		
機能	芸術観賞	信濃美術館、東山魁夷館、野外彫刻
	交流	蔵春閣、城山公民館
	遊び	ふれあい広場、噴水広場
	学び	城山動物園、少年科学センター
	展望	—
	ふれあい	ふれあい広場 城山動物園
	自然保全	東の斜面林 堀切沢 桜並木
	スポーツ	テニスコート 市民プール
駐車場	立体駐車場、少年科学センター駐車場、公民館駐車場、ふれあい広場身障者駐車場、東山魁夷館駐車場	
交通	園内に車の動線と歩行者の動線が混在	

基本構想			
コンセプト	「文化と芸術と交流の杜」		
ゾーニング 交通の考え方			
機能	芸術観賞	芸術の庭ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術を通じた観賞機能を強化する。 ・県を代表する美術館があり、多様な芸術に触れることができる。
	交流	交流の丘ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の機能を継承していく。 ・文化的な活動をしながら来訪者が交流する。
	遊び、学び	ふれあいの森ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び、学び系の機能を維持する。 ・開放感あふれる空間のなかで自然や動物と触れあえる。 ・科学や生物に触れあえる。
	展望	交流の丘ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・良好な景観が望める機能を強化する。 ・緑が豊かな環境のなかで、周辺の間々や市街地が眺望できる。
	ふれあい	ふれあいの森ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい（人・動物）系の機能を維持する。 ・2つのゾーンでふれあい機能を分担する。
	自然保全	交流の丘ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境を維持する。 ・2つのゾーン内で自然環境保全の機能を分担する。
	スポーツ	—	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトをもとに園外へスポーツ機能の統合を検討する。 ・北部スポーツレクリエーションパークと昭和の森公園へ集約を検討する。
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> ・園内交通を考慮して、公園の北側に1箇所設ける。 ・必要に応じ、「交流の丘ゾーン」（城山庁舎）の敷地に検討する。 		
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車動線を制限するために既存の車道を公園の軸線として有効活用する。 ・長野大通りからのアクセス道路を追加して、緊急災害時の対応を強化する。 ・関係車両等のアクセス路を新設（神社東側） 		

—— 參考資料編 ——

目 次

1 条件整理

- ①長野市の人口・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
- ②城山公園の利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・27
- ③県内観光地の利用状況・・・・・・・・・・・・28
- ④上位関連計画等・・・・・・・・・・・・・・・・28
- ⑤グリーンインフラの推進・・・・・・・・・・・・32
- ⑥防災の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・34

2 歴史経過の整理

- ①城山公園の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・35
- ②公園の歴史その1（明治41年頃の様子）・・・・・・36
- ③公園の歴史その2（昭和37年頃の様子）・・・・・・37
- ④公園の歴史その3-1（昭和41年頃の様子）・・・・・・38
- ⑤公園の歴史その3-2（平成元年頃の様子）・・・・・・40
- ⑥公園の歴史その4（現在の様子）・・・・・・42

3 城山公園の特徴

- ①主な施設の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・43
- ②類似施設の分布・・・・・・・・・・・・・・・・44
- ③地形条件・・・・・・・・・・・・・・・・45
- ④各施設の課題・・・・・・・・・・・・・・・・46
- ⑤公園利用者の動線・・・・・・・・・・・・・・・・47
- ⑥城山公園へのアクセス動線・・・・・・・・・・・・48
- ⑦利用者動線の整理・・・・・・・・・・・・49

4 巻末資料

- ①検討の経過・・・・・・・・・・・・・・・・50
- ②基本構想策定のフロー図・・・・・・・・・・・・51
- ③城山公園再整備検討委員会設置要綱・・・・・・・・52



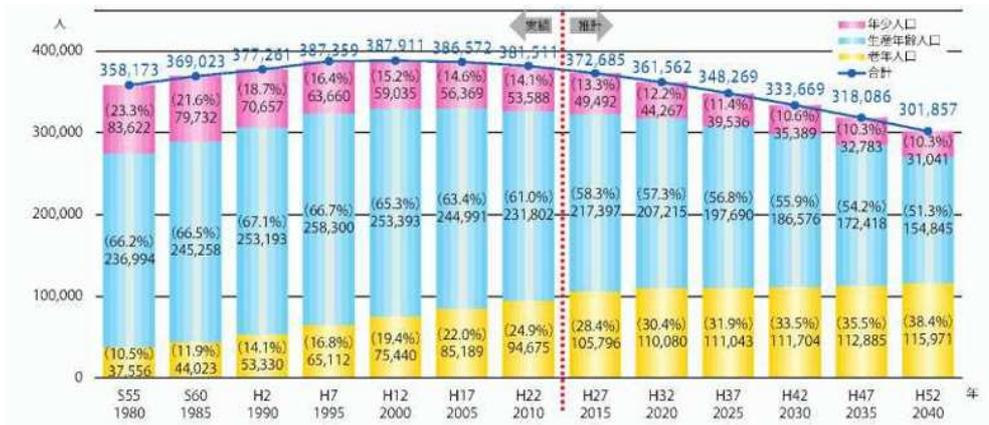
1 条件整理

(本編3ページ 計画の背景に関する補足資料)

①長野市の人口

- ・本市の人口は平成30年10月1日現在、378,351人(住民基本台帳の登録人口)であるが、平成12年をピークに減少傾向、将来も人口減少が続くことが予測されている。
- ・年々、年少人口と生産年齢人口が減少する一方で、老年人口は微増である。
- ・老年人口に着目すると、2015年から2040年までは、総人口数は減少して、高齢化率(65歳以上を占める割合)は増加するが、老年人口数そのものは微増もしくはほぼ一定である。

図1 長野市の年齢3区分別人口推移と推計



(平成22年までの実績は、国勢調査結果、将来推計は国立社会保障・人口問題研究所(平成25年3月公表)日本の地域別将来人口推計(出典:長野市公共施設白書、平成25年))

※平成27年実施の国勢調査の集計値は、総人口377,598人(年少人口49,052人、生産年齢人口216,734人、老年人口106,007人)であった。

出典:長野市都市計画マスタープラン,平成29年4月,長野市

参考資料

②城山公園の利用状況

- ・城山公園の施設別の利用者と、善光寺の来訪者とを比較すると、善光寺来訪者の数%の利用となっている。
- ・施設別の比率は次のとおりである。(各施設は、善光寺利用者がすべて利用するとは限らない)

表1 城山公園の利用状況(3ヶ年分)

単位:人

	26年	比率	27年	比率	28年	比率	29年	比率
善光寺	6,255,100	-	12,288,800	-	6,419,100	-	6,652,600	-
城山動物園	265,200	4.2	269,800	2.2	248,900	3.9	265,800	4.1
信濃美術館	58,700	0.9	65,700	0.5	165,100	2.6	-	-
少年科学センター	107,000	1.7	107,300	0.9	107,300	1.7	109,100	1.7
東山魁夷館	67,500	1.1	85,900	0.7	68,000	1.1	-	-
噴水広場	-	-	-	-	-	-	374,000	5.8
城山テニスコート	16,208	0.3	15,930	0.1	16,272	0.3	15,984	0.2
城山プール	10,414	0.2	12,808	0.1	15,862	0.2	12,866	0.2
蔵春閣	7,495	0.1	9,270	0.1	-	-	-	-

比率は、(各施設)/(善光寺)×100%

出典:長野市公園緑地課調べ(基本条件の調査書のデータを用いて作成)

H29年の噴水広場の年間利用者数は推計値

H29/7/29(土)219人、7/30(日)821人、8/1(火)516人の利用者実績数を用いて、「公園の利用(S59.4)」の利用変動式(新宿御苑)を用いて算出。3つの算術平均値を年間利用者数とした。

③県内観光地の利用状況

善光寺は県内で毎年1～2位の利用者数で、月別では、4～5月、8月、11月の3つのピークがある。

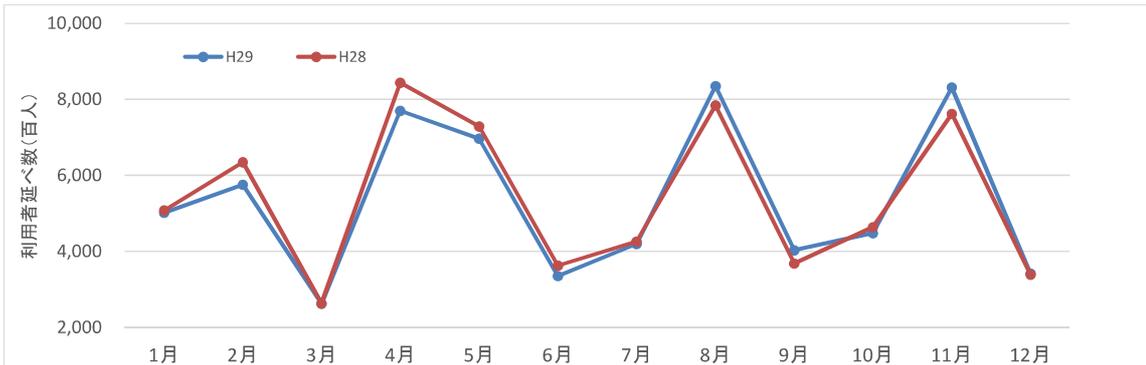
表2 県内の観光地の利用状況（3ヶ年分）

(単位:千人、%)

順位			市町村名	観光地名	延利用者数			対前年 増減	対前年 増減比
27年	28年	29年			27年	28年	29年		
2	1	1	軽井沢町	軽井沢高原	8,403	8,458	8,530	72	0.9
1	2	2	長野市	善光寺	12,283	6,485	6,421	△ 64	△ 1.0
3	3	3	諏訪市	上諏訪温泉・諏訪湖	3,979	3,988	4,009	21	0.5
4	5	4	山ノ内町	志賀高原・北志賀高原	3,343	3,106	3,289	182	5.9
5	6	5	諏訪市	霧ヶ峰高原	2,306	2,300	2,283	△ 17	△ 0.7
6	7	6	白馬村	白馬山麓	2,271	2,020	2,156	136	6.7
8	8	7	立科町・茅野市	白樺湖・東白樺湖	1,985	1,944	1,931	△ 13	△ 0.7
7	4	8	上田町	上田城跡	2,151	3,488	1,788	△ 1,700	△ 48.7
12	12	9	安曇野市	安曇野穂高温泉郷	1,421	1,541	1,664	123	8
9	10	10	安曇野市	安曇野湧水群	1,758	1,782	1,616	△ 166	△ 9.3

出典：平成29年観光地利用者統計調査結果，長野県観光部をもとに作成

表3 善光寺の月別の利用者延べ数



出典：平成29年観光地利用者統計調査結果，長野県観光部をもとに作成

④上位関連計画等 (21ページ 上位関連計画に関する補足資料)

■長野市都市計画マスタープラン(H29.4改定)

地域特性

善光寺に隣接する城山公園には美術館などが立地し、文化・芸術・レクリエーションの拠点となっている。

地域の街づくりの目標と整備の方針

【拠点の形成・都市機能形成方針】

公園一帯では、都市の貴重な緑地空間の保全を図るとともに、文化・芸術の拠点性を高めて、広域的な文化・芸術・レクリエーション・防災等の機能が一体となった地域形成を進める。

【自然環境・都市環境・景観形成方針】

公園一帯の自然環境を活かすと共に、文化・芸術・レクリエーションの機能を高める施設の再整備を図る。

【防災都市づくり方針】

災害に強い地域づくりを進め、広域避難場所としての城山公園の防災機能強化を図る。

■長野市緑を豊かにする計画(H31.4改定)

量から質への転換

市民意見を取り入れながら、既設公園の再整備等を進める。

- ・ユニバーサルデザインや防犯・周辺景観との調和に配慮した公園再整備(城山公園、川中島史跡公園等)

民間活力の導入

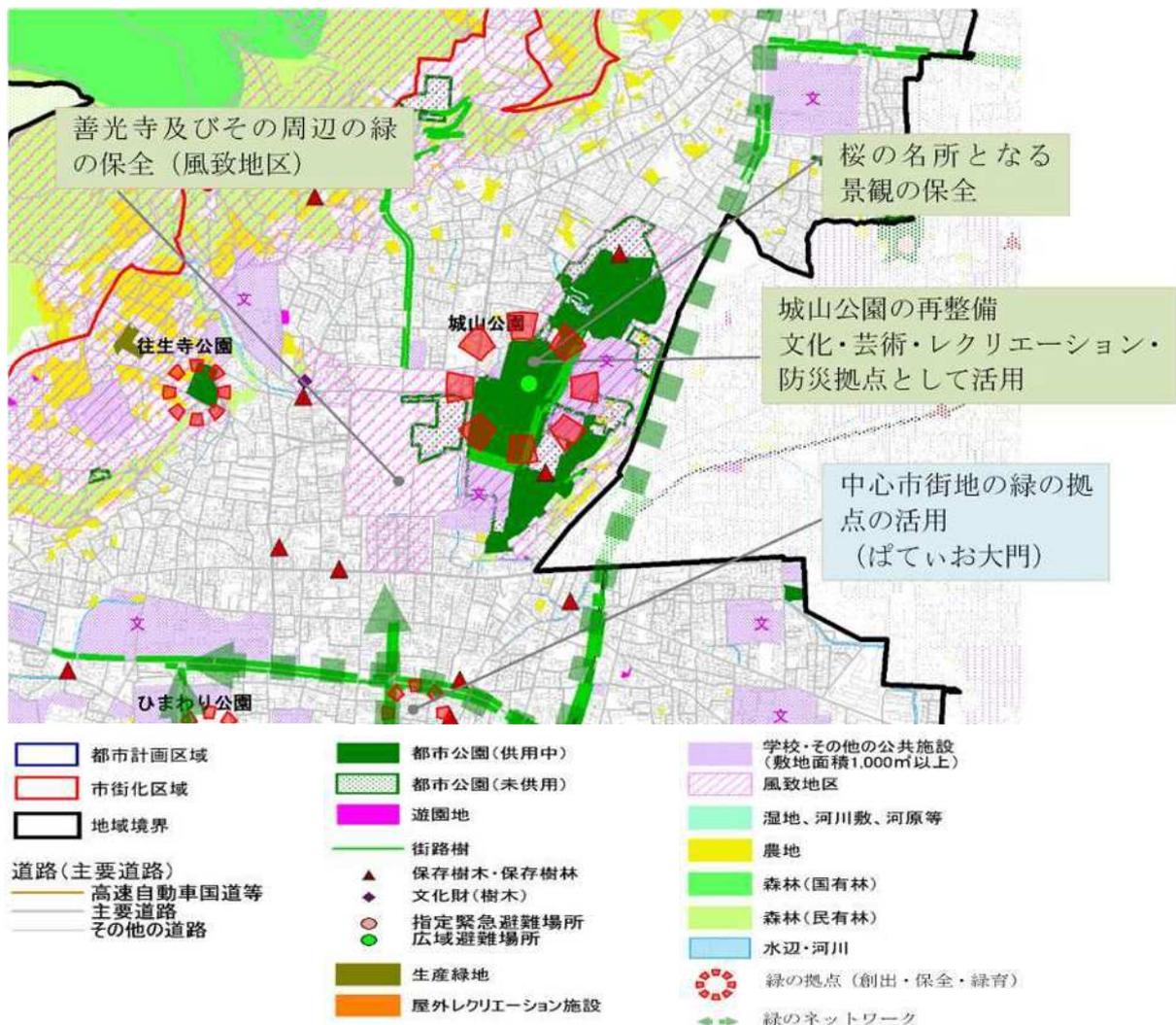
都市公園に民間の投資を誘導し、財政負担を軽減しつつ、質の向上、利便性の効用を図る。

- ・Park-PFIの導入(城山公園、篠ノ井中央公園)

地域別計画の抜粋

- ・中心市街地をはじめ、市街地における民有地の緑化や公共施設用地の緑化を市民との協働で進めます。
- ・長野市のシンボルとなる城山公園を文化・芸術・レクリエーションの拠点としての機能向上を図ります。
- ・善光寺とその周辺の歴史ある緑を保全します。

図2 城山公園とその周辺の緑化方針図の抜粋 (P82)



■長野市地域防災計画(H29.7改訂)

○広域避難場所

- ・城山公園一帯(公民館、小学校を含む)
長野市の広域避難所10箇所の中のひとつ。
- ・周辺の一次避難場所としては、信州大学教育学部(西長野6の口)、長野西高等学校(箱清水3-8-5)、湯谷小学校(上松4-28-38)、長野高等学校(上松1-16-12)

○周辺の道路

- ・長野県地域防災計画に定める緊急輸送道路(県指定の道路) 城山公園に近接道路
- ・長野大通り「建築物集合地域通過道路」とする避難路(市指定の道路)



■長野市観光振興計画(H29.4策定)

- ・本計画の基本戦略では、計画期間中に市やながの観光コンベンションビューローが中心となって取り組む基本的な施策を、5つの政策の柱により体系的にまとめている。
- ・これらの事業は、庁内関係課及び関係機関と積極的に連携して実施することとなっている。
- ・城山公園周辺に該当する事業は、1-2-2である。

総合計画施策	政策	施策	事業
施策1 豊富な観光資源等を活かした観光交流促進	1 観光地域づくりの実践	1-1 観光情報の効果的な発信	1-1-1 共通のコンセプトに基づく観光情報の発信
			1-1-2 ターゲットに向けた効果的な情報発信
		1-2 地域資源の磨き上げによる魅力向上支援	1-2-1 「長野市ならではの食事やお土産(飲食物)の開発支援
			1-2-2 市内滞在時間延長のための善光寺界隈、戸隠、松代を起点とした周遊コンテンツ開発
			1-2-3 スポーツや文化芸術、文化財などを切り口としたコンテンツ開発
			1-2-4 未活用の地域資源を活かした新しいコンテンツ開発支援
	1-3 観光都市を実現するための人材育成・体制整備	1-3-1 観光リーダー育成支援	
		1-3-2 観光関連事業者間連携・受入体制構築支援	
	2 広域連携とハブ機能の強化	2-1 広域連携による誘客活動の推進	2-1-1 広域周遊観光促進のためのプロモーション・コンテンツ開発
			2-1-2 ハブ機能強化に向けた長野市観光情報センターの強化検討

事業1-2-2 市内滞在時間延長のための善光寺界隈、戸隠、松代を起点とした周遊コンテンツ開発

事業概要	
観光客の市内滞在時間延長のため、善光寺界隈、戸隠、松代を起点とし、周辺エリアへの周遊を促すためのコンテンツ開発等を行う。	
主な取組内容	主な実施主体
<ul style="list-style-type: none"> ・善光寺界隈、戸隠、松代と他の観光資源をつなぐ観光コンテンツの開発 ・開発したコンテンツのプロモーション ・善光寺～城山公園～信濃美術館の周遊促進 	観光振興課、商工労働課、文化財課、環境政策課、公園緑地課、ながの観光コンベンションビューロー、各観光協会

■第二次長野市環境基本計画後期計画(H29.4策定)

本計画は、長野市全域が対象の範囲であり、長野市が目指す望ましい環境像、基本目標を示し、市民・事業者・行政の協働による、良好な環境の保全と創造を実現するための方策を示している。

- 1) 長野市が目指す望ましい環境像
- ・豊かな自然と共生するまち
 - ・資源が循環する地球にやさしいまち
 - ・安心して暮らせる、清潔で快適な魅力あふれるまち
 - ・すべての人が地球環境を思いやるまち
 - ・地域産業の発展と環境の保全が良好な循環を生むまち

2) 基本目標

◆基本目標1 循環型社会の実現

3Rに加え、それぞれの状況に合った取組(＋R)の推進やごみ処理体制を充実し、良好な資源循環を確保することにより、廃棄物の発生を抑制し、環境への負荷の少ない循環型社会を実現します。

◆基本目標2 良好な生活環境の保全

産業型公害や生活型公害を防止し、清らかな空気や水、清潔なまちなみなどを実現することにより、良好な生活環境を保全します。

◆基本目標3 豊かな自然環境の保全

生物多様性の確保や希少動植物の保護、外来生物への対応を進めるとともに、森林や農地などを健全に保全し、豊かな自然環境を保全します。

◆基本目標4 豊かで快適な環境の創造

歴史的・文化的環境の保全、良好な景観の形成、身近な緑や河川の整備などを通じて、水と緑と歴史をいかした、潤いとやすらぎを感じられる豊かで快適な環境を創造します。

◆基本目標5 低炭素社会の実現

省エネルギーの推進や、地域の特性を活かした再生可能エネルギーの導入など、地域環境に配慮したエネルギーの適正利用を推進するとともに、エネルギー効率の高い都市基盤が整備された低炭素社会の実現を目指します。

◆基本目標6 市民・事業者・行政の連携強化と人づくりの推進

市民・事業者・行政がそれぞれの責務と役割を果たすために、主体間の連携を強化するとともに、子どもから大人まで、「地球環境を思いやる人づくり」を推進します。

■持続可能な開発目標(SDGs)

SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択されたものです。2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた国際目標であり、17の大きな目標の実現を目指しています。本市においても、2019年7月にSDGsを推進することを決定し、今後の行政運営に反映していくこととしています。



城山公園再整備事業については、長野市緑を豊かにする計画と同様に2つの目標を位置付けます。



「住み続けられるまちづくりを」

都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする

極度の貧困は都市部に集中することが多いため、国も自治体も、都市部の人口増加への対応に苦慮しています。都市を安全かつ持続可能にするためには、安全で手頃な価格の住宅へのアクセスを確保し、スラム地区の改善を図らなければなりません。また、公共交通機関に投資し、緑地を整備するとともに、参加型で包摂的な方法で都市計画や管理を改善することも必要です。



「陸の豊かさを守ろう」

陸上生態系の保護、回復及び持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止及び逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

持続可能な開発目標(SDGs)は、森林や湿地、乾燥地、産地などの陸上生態系を保全し、2020までにその利用回復を狙いとしています。森林の持続可能な管理を推進し、砂漠化を食い止めることも、気候変動の影響の緩和に欠かせません。地球上の共通遺産の一部である自然の生息域と生物多様性の損失を軽減するために、今すぐ対策を講じなければなりません。

⑤グリーンインフラの推進

グリーンインフラとは、社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組みである。

国土交通省では、この取組を社会資本整備や土地利用等を進める上での全般的な取組として普及・促進するため、「グリーンインフラ推進戦略」としてまとめている。

城山公園は、豊かな緑に囲まれた公園であることから、長野市街地における身近なグリーンインフラのひとつと言える。

別添2

国土交通省

グリーンインフラ推進戦略の概要

1. 基本理念

(1)グリーンインフラ(以下、本戦略において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能な国土・都市・地域づくり促進の取組)。

2. 推進の方向性

(1) 自然環境の活用
 (2) グリーンインフラの活用
 (3) SDGs(持続可能な開発目標)、ESG投資等との相乗性
 (4) 人口減少社会での土地利用の活性化への対応

3. グリーンインフラの特徴と意義

(1) 機能の多様性
 (2) 地域や国境を越えた連携
 (3) 自然環境と人間の共生

4. グリーンインフラの活用促進の取組

(1) 政策動向への対応
 (2) 投資や人材を呼び込む
 (3) 自然環境と調和したソフト空間等の形成

5. グリーンインフラを担い取るための方針

(1) グリーンインフラ主流化のための環境整備
 (2) 担い手を育てる
 (3) 自然環境と調和したソフト空間等の形成

別添2

国土交通省

(1) 自然環境の活用
 (2) グリーンインフラの活用
 (3) SDGs(持続可能な開発目標)、ESG投資等との相乗性
 (4) 人口減少社会での土地利用の活性化への対応

1. 基本理念

(1)グリーンインフラ(以下、本戦略において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能な国土・都市・地域づくり促進の取組)。

2. 推進の方向性

(1) 自然環境の活用
 (2) グリーンインフラの活用
 (3) SDGs(持続可能な開発目標)、ESG投資等との相乗性
 (4) 人口減少社会での土地利用の活性化への対応

3. グリーンインフラの特徴と意義

(1) 機能の多様性
 (2) 地域や国境を越えた連携
 (3) 自然環境と人間の共生

4. グリーンインフラの活用促進の取組

(1) 政策動向への対応
 (2) 投資や人材を呼び込む
 (3) 自然環境と調和したソフト空間等の形成

5. グリーンインフラを担い取るための方針

(1) グリーンインフラ主流化のための環境整備
 (2) 担い手を育てる
 (3) 自然環境と調和したソフト空間等の形成

別添2

国土交通省

(1) 自然環境の活用
 (2) グリーンインフラの活用
 (3) SDGs(持続可能な開発目標)、ESG投資等との相乗性
 (4) 人口減少社会での土地利用の活性化への対応

1. 基本理念

(1)グリーンインフラ(以下、本戦略において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能な国土・都市・地域づくり促進の取組)。

2. 推進の方向性

(1) 自然環境の活用
 (2) グリーンインフラの活用
 (3) SDGs(持続可能な開発目標)、ESG投資等との相乗性
 (4) 人口減少社会での土地利用の活性化への対応

3. グリーンインフラの特徴と意義

(1) 機能の多様性
 (2) 地域や国境を越えた連携
 (3) 自然環境と人間の共生

4. グリーンインフラの活用促進の取組

(1) 政策動向への対応
 (2) 投資や人材を呼び込む
 (3) 自然環境と調和したソフト空間等の形成

5. グリーンインフラを担い取るための方針

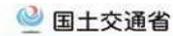
(1) グリーンインフラ主流化のための環境整備
 (2) 担い手を育てる
 (3) 自然環境と調和したソフト空間等の形成

■ 緑とオープンスペース政策は新たなステージへ

国土交通省が推進する緑とオープンスペース政策は、少子高齢化や人口減少社会の到来による社会状況の変化を転機と捉えて、より一層住みやすく、持続可能な都市への再構築を進めるため、新たなステージへ移行していくべきである。

これまでの経済成長、人口増加等を背景とした緑とオープンスペースの量の増加から、緑とオープンスペースが持つ多機能性を最大限に活用していくことを重要視する。

新たなステージとは



これまでのステージ

経済成長、人口増加等を背景とし、緑とオープンスペースの量の整備を急ぐステージ

新たなステージ

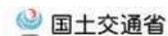
社会の成熟化、市民の価値観の多様化、都市インフラの一定の整備等を背景とし、緑とオープンスペースが持つ多機能性を、

- 都市のため (持続可能で魅力あふれる高質都市の形成 など)
- 地域のため (個性と活力ある都市づくりの実現 など)
- 市民のため (市民のクオリティ・オブ・ライフの向上 など)

に最大限引き出すことを重視するステージに移行すべき。

出典：「新たな時代の都市をつくる緑とオープンスペースの基本的考え方」の概要
国土交通省都市局 公園緑地・景観課

新たなステージで重視すべき観点



観点1：ストック効果をより高める

- 都市公園は全国的に見ると一定程度整備されてきた
- 今あるものをどう活かすか、という視点を重視すべき
- 都市公園を活性化する、また、必要に応じて再編するという考え方が重要
⇒公園管理者も資産運用を考える時代へ！

観点2：民間との連携を加速する

- 公共の視点だけでモノをつくらない、発想しない
- 民間のビジネスチャンスの拡大と都市公園の魅力向上を両立させる工夫を
⇒民がつくる、民に任せる公園があってもいい！

観点3：都市公園を一層柔軟に使いこなす

- 画一的な都市公園の整備は× (とりあえず三種の神器 (砂場、滑り台、ブランコ) 等)
- 画一的な都市公園の管理は× (一律でボール遊び禁止 等)
- 公園の個性を引き出す工夫で、公園はもっと地域に必要とされる財産になる
⇒公園のポテンシャルを柔軟な発想で引き出す！

出典：「新たな時代の都市をつくる緑とオープンスペースの基本的考え方」の概要
国土交通省都市局 公園緑地・景観課

⑥防災の考え方

城山公園は、長野市地域防災計画において広域避難地に指定されているため、防災公園に必要とされる役割と機能をまとめる。

表 I-8 防災公園等の役割一時系列的整理(地震火災の場合)

		災害の時間区分			
段階	予防段階	直後段階	緊急段階	応急段階	復旧・復興段階
時間	発災前	発災～概ね3時間程度	概ね3時間～概ね3日程度	概ね3日以降	
スケール					
防災目標	事前防止	生命確保	生命維持	生活確保	生活再建
防災公園の役割	○防災に関する知識を学ぶ場(防災訓練、自主防災組織の育成、防災意識の普及啓発)	○火災の延焼の遅延または防止 ○爆発による被害の軽減または防止 ○救援活動の場 ○緊急避難の場 ○大火時の一時集合場所、避難中継地、最終避難地、避難路等	○火災の延焼の遅延または防止 ○爆発による被害の軽減または防止 ○救援活動の場 ○一時的避難生活の場 ○徒歩帰宅者への支援等	○救援活動の場 ○一時的避難生活の場等	○復旧・復興活動の拠点等

出典：社団法人都市計画学会資料より作成

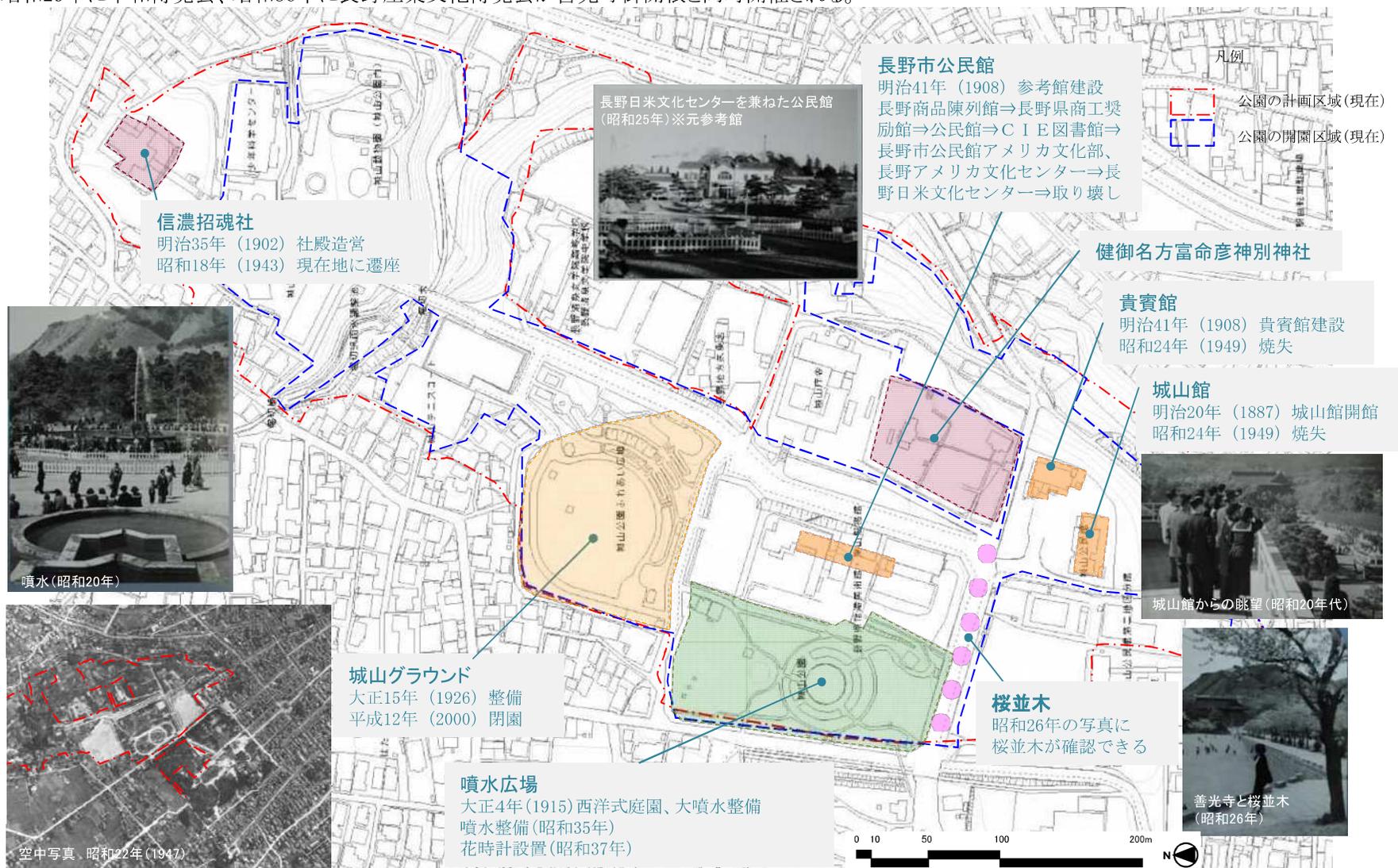
表 I-9 設置目的からみた防災公園等の役割(地震火災の場合)

設置目的	役割	火災の延焼又は遅延の防止	爆発による被害の軽減又は防止	徒歩帰宅者等への支援の場	一次避難地			最終避難地	避難路	救援活動の場	一時的避難生活の場	復旧・復興活動の拠点	防災に関する知識を学ぶ場
					緊急避難の場	大火時の一次集合場所	避難中心地						
広域防災拠点の機能を有する都市公園					○			○		◎	○	◎	○
地域防災拠点の機能を有する都市公園					○			○		◎	○	◎	○
広域避難地の機能を有する都市公園		○			○			◎		◎	○	◎	○
一次避難地の機能を有する都市公園		○			◎	◎	◎			○	○	○	○
避難路の機能を有する都市公園		○			○	○	○		◎				○
石油コンビナート地帯等と背後の一般市街地を遮断する緩衝緑地		○	◎										○
帰宅支援場所の機能を有する都市公園		○		◎	○	○	○						○
身近な防災活動拠点の機能を有する都市公園		○			○	○				○	○		○

◎：特に関連性が大きい ○：関連性が大きい

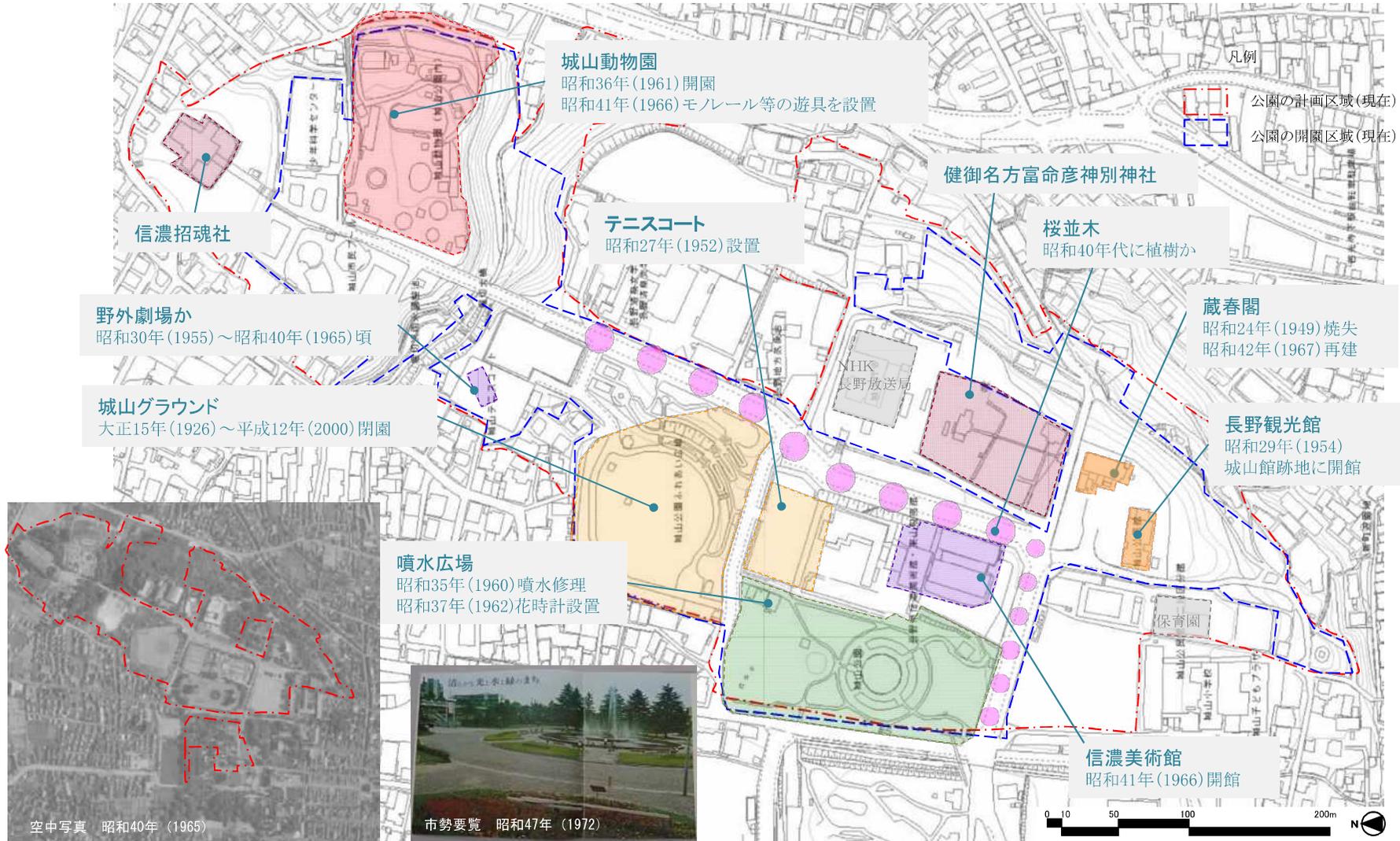
③公園の歴史その2（昭和37年頃の様子）

大正4年、東洋一と称せられた噴水と西洋式庭園が完成したことを契機として、城山公園全体の整備が進められる。
昭和29年に平和博覧会、昭和36年に長野産業文化博覧会が善光寺御開帳と同時開催される。



④公園の歴史その3-1 (昭和41年頃の様子)

昭和41年に城山公園が条例化される。公園面積が約12haとなり、現在の公園エリアまで拡大されて、様々な公園施設がつくられていく。



参考) 城山公園は遊覧都市構想のなかの基幹公園(昭和5年)

①近代都市計画における緑に関する計画の変遷*

長野市の緑、特に公園の計画は、今から90年前の旧都市計画法における認可(1930年昭和5年)まで遡り、内務技官・山田博愛によって、長野都市計画として、街路計画、公園計画、地域指定がまとめられました。この当時、地方中小都市のなかでは、富山市、岐阜に次ぐ3番目の認可であり、このなかで長野の公園計画は最大のものでした。また、「この市のように街路と公園を同時に案を立てたのは全国でも大阪、名古屋位のもの」とあるように、公園計画の樹立は、全国をみてもかなり珍しいものでした。

この長野都市計画のコンセプトは、「仏都から遊覧都市へ」であり、街路計画と公園計画が相互に関係し、公園ネットワークを築いている点に大きな特色がありました。

公園は14箇所計画され、1ha以上の大公園が11箇所を占めます。市の中心に大公園を作ることとは不可能であるので、これを郊外に配置、天然の風致、土地現況、用途地域計画との関係を深く鑑み、寺社仏閣、水渡樹林地、史跡名勝等の関係を考慮して、位置を選定たとされています。なお、大戦末期を境に、当初の計画は段階的に変更を加えられ、当初の計画どおりの実現はかきませんでしたが、本市の公園計画は、今から90年前から考えられており、公園配置に関して、歴史的な重厚さを感じます。



出典：戦前期の地方都市における近代都市計画の動向と展開、浅野純一郎 平成20年10月、中央公論美術出版

上図の公園計画中、①城山公園(約34ha)は、善光寺のすぐ東隣に位置し、遊覧都市構想の基幹になることが期待された公園。そのほか、大規模公園として、③平林公園(約13.6ha)、⑦南向公園(約20ha)、⑨裾花公園(約8.4ha)、⑩大黒山公園(約20.4ha)、⑪西長野公園(約11ha)がみられる。

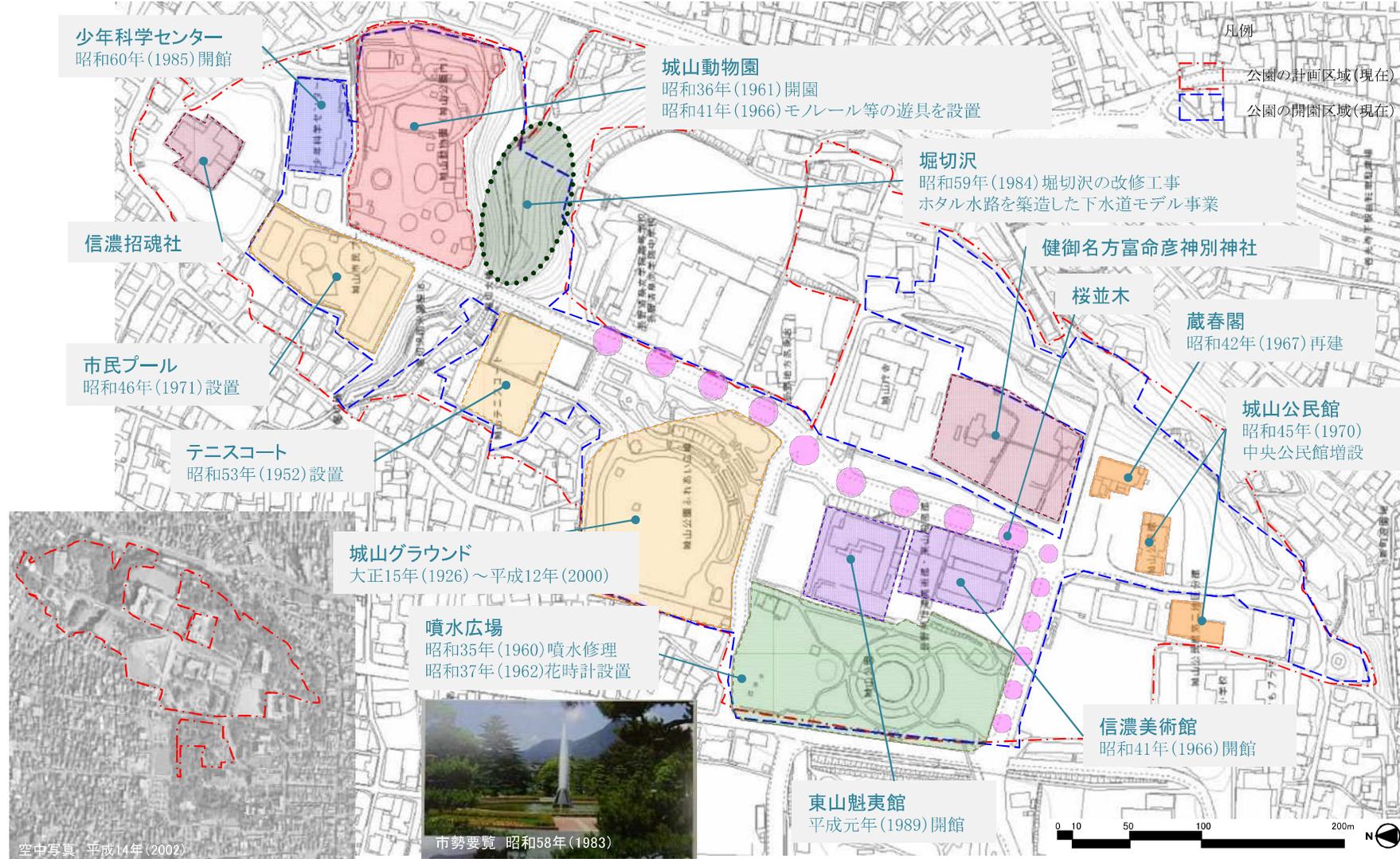
出典：長野市緑を豊かにする計画(H31.4改定)より抜粋

参考) 動物園は長野産業文化博覧会のレガシー(昭和37年)



⑤公園の歴史その3-2 (平成元年頃の様子)

市民プールやテニスコートなどのスポーツ施設、城山公民館などが整備される。



参考) 少年科学センターは、市の青少年の科学の興味を喚起するもので、地附山に建設予定であったものが城山公園へと移った

少年科学センターについて (昭和60年建設)

21世紀を担う子どもたちに最新科学とそれに関連する基礎的な科学機器を展示し、遊びの中に科学する芽を養い、いつも新鮮な驚きと楽しい雰囲気によって、潜在的興味を喚起させるための施設(公共施設白書 P131より)
 長野県内では「少年科学センター」と「佐久市のこども未来館」との2施設がある。

長野市立児童科学館(仮称)の基本的考え方

1. 建設の目的

長野市総合基本計画の都市像を展望し、「かおり高く、気力あふれる教育文化都市」の実現と「青少年健全育成都市宣言」の達成をはかるため、この施設は、近代科学にふれることによって青少年の科学に対する潜在的興味を喚起し、健全な育成をはかる。

2. 施設の性格と機能

長野市の美しさの表像と展示品の科学性との相乗的効果により、科学への興味を引き出す、次のような施設とする。

(1) 性格

- ア 地附山都市公園計画により開発される、おおよそ30haの敷地内の自然環境豊かな景観の中の文化施設とする。
- イ 理工系児童科学館として遊び(体験と参加性)の中に、科学の芽を養う「科学の館」とする。
- ウ 公園内の遊戯施設及び長野市立博物館や理科センターと調和の上に独創をもたせる。
- エ 施設での体験を助長するため、制作教室の開催など教育普及と科学技術に関する資料の収集、調査、研究を行い、展示品の開発及び補修・更新に対応する。

(2) 機能

- ア 地方文化の向上をはかる施設として、地方での科学学習を育てる。
- イ 科学が身近な生活にかかわって共存していることへの理解を深めるとともに探求心を育てる。
- ウ おどろき・なぜ・夢を誘う科学の館として、楽しい雰囲気といつも新しい分野の発見できる継続性を持たせる。

3. 施設の基本的要件の規模

多様な利用層に対応できる建物及び展示をはかり、次の点を考慮する。

- (1) 防災上の配慮と利用者の安全を確保する。
- (2) 建物は、落ち着いた親しみやすい、美的で気品のあるものとする。
- (3) 清潔、快適な環境を確保する。
- (4) 建物は、都市公園及び風致地区の規定による。
- (5) 利用者のための休憩室と身体障害者の利便をはかる。
- (6) 自然光、自然通風の利用をはかる。
- (7) 入口は一般と職員を分ける。
- (8) 展示品の搬入口を1F、2F毎に設ける。
- (9) 便所は、一般用、身障者用、様式を考慮する。
- (10) エレベーター設置の時は、内部機構が見えるようにする。(安全性を特に考慮)
- (11) モーター・ポンプ・送風等の消音に配慮する。
- (12) 照明の系統は建物の内外ともに細分化する。
- (13) 屋外に水道・電気コンセントを設置する。
- (14) 建物に風向・風速計を設置する。
- (15) 建築面積は概ね3000㎡とし、管理室・研究所・工作室等の施設を確保する。
- (16) 将来、増築のための敷地を確保する。
- (17) 施設の概要
 - ア 構造 鉄筋コンクリート造り又は、鉄骨造り
 - イ 面積 3000㎡以内
 - 内訳 常設展示用面積 1500㎡内外、特別展示用面積 200~300㎡内外、
 - 実験工作用面積 150㎡内外、視聴覚用面積 200㎡内外、保管管理用面積 800~1000㎡内外

4. 展示の基本的考え方

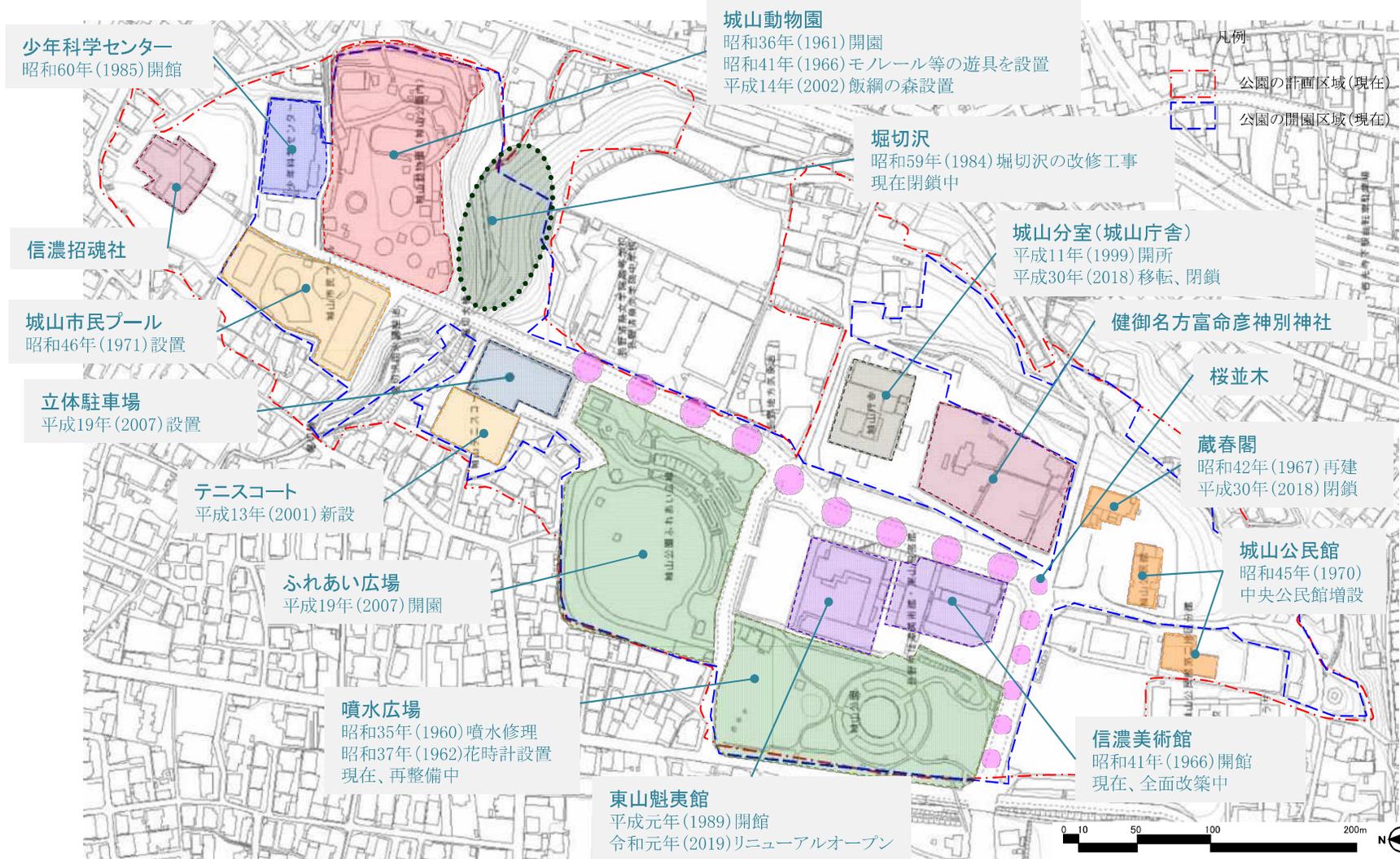
- (1) 子どもたちの遊びは、生活準備説や反復説などさまざまな説がありますが、子どもたちは、遊びそのものが目的であり、生活であります。また、人間形成に大きな役割を持っています。この科学館は、展示品との対話をこの視点から実現し、遊びのもつ非拘束性(自由で自発的)による自己開発をはかるものとする。
- (2) 展示品は、奥にある原理を探究していく糸口として計画される必要がある。したがって、まずわかる、また、わからせる展示工夫を行うことと、展示品自らの働きかけ(呼びかけ)を持たせるようにする。
- (3) 展示は、何をわからせるかを検討し表現する。児童から高年齢への理解度は高くなるが、全体的には学問的でなく人間のもたらした科学のすはらしさを、それなりにわかるが良い。
- (4) 見る・ふれる・ためす・つくるを基本に利用者のレベルに応じ、積極的に参加できるものとする。
- (5) 美しいから、大きいから、小さいから、面白いから、古いから、貴重だからと単に配列でなく、いくつかの中心的展示を核に有機的にストーリーを持たせる。
- (6) 展示品は、操作性、耐久性、安全性、省エネルギーを持たせる。また、可動性を考慮し固定展示は最小限にする。
- (7) 展示品の解説は、児童に視点を置き、文字は簡潔にする。
- (8) 視聴覚機器の活用をはかる。
- (9) 長野市の基調色は、自然の美「緑」空気と水の美しさ「青」稔の美しさ「黄」りんご「赤」とし展示との協調を考慮する。



昭和58年7月21日新聞記事

⑥公園の歴史その4（現在の様子）

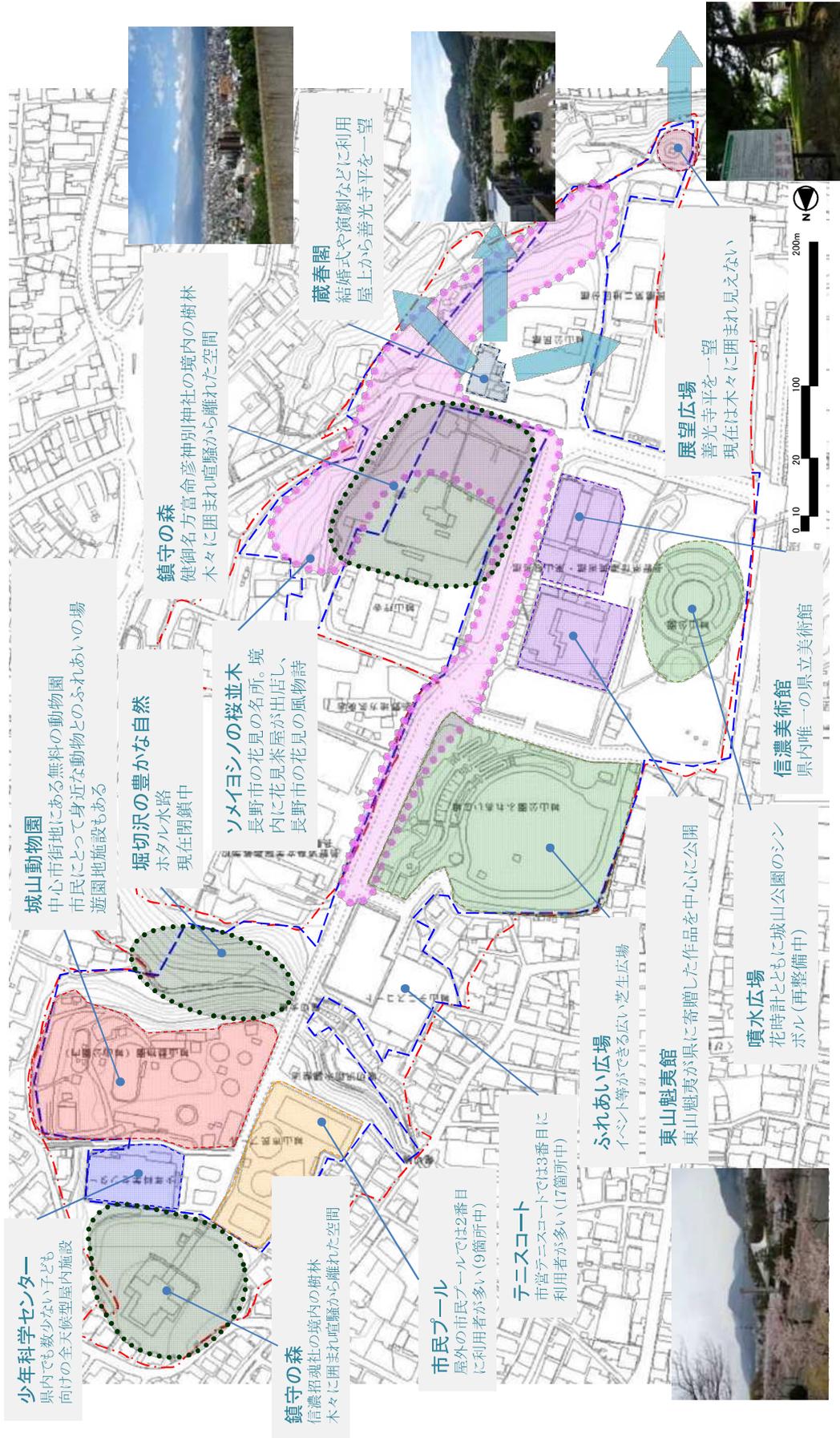
城山公園の開園から100年(平成12年)を迎える頃には、野球場が南長野公園に移転した跡地にふれあい広場が整備される。



3 城山公園の特徴 (本編22ページ 「現公園」に関する補足資料)

①主な施設の特徴

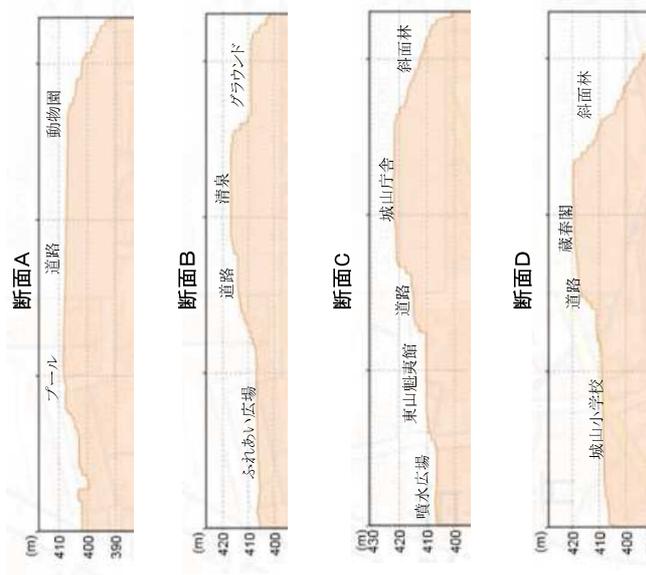
時代のニーズに合わせて整備された公園であり、総合公園の特性を活かして、様々な機能を有する施設が配置されている。



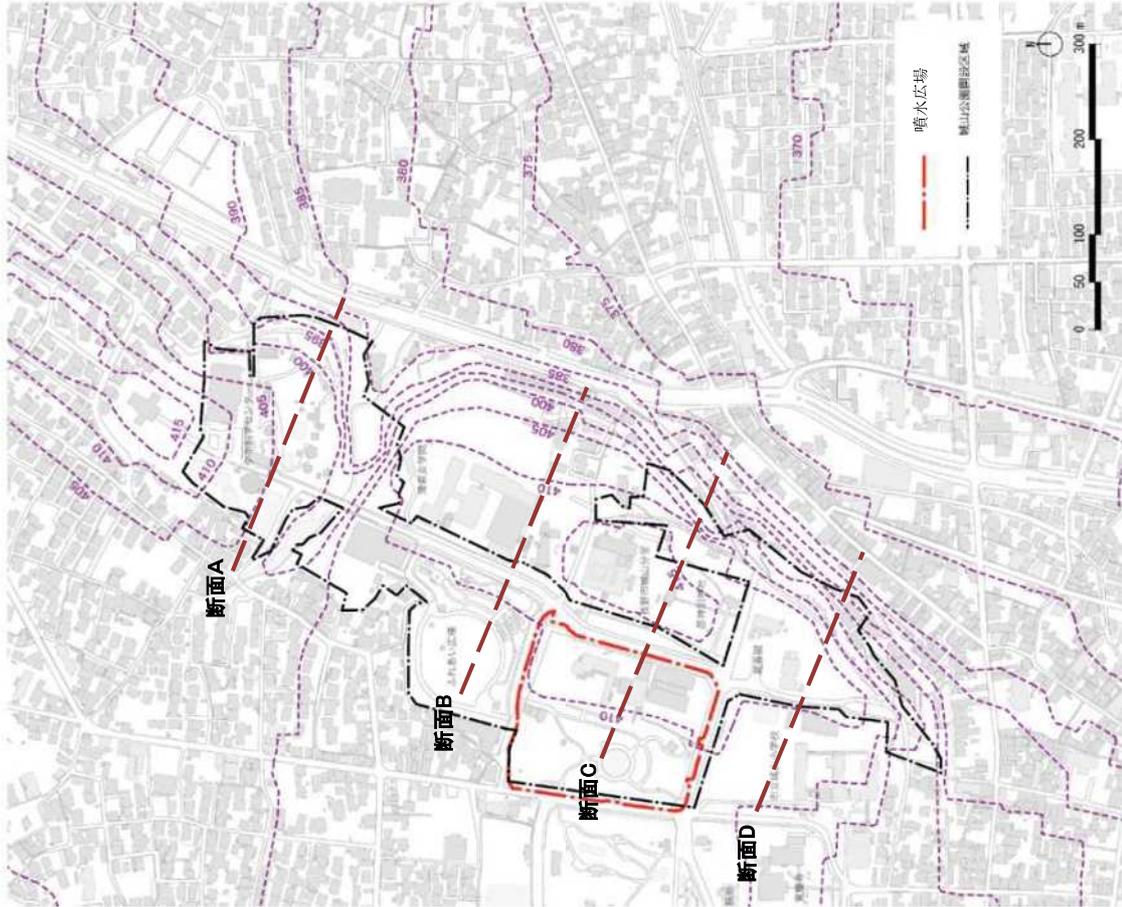
③地形条件

- 西側は比較的なだらかな地形が広がり、東側は急斜面となる。
- 最も高い地点に位置するのは健御名方富命彦神別神社である。
- 南北の道路から西方向をみると、美しい山並みが特徴的な風景が広がる。
- 南北の道路を挟んで高低差がある。
- プールや動物園、少年科学センターの辺りの高低差はあまりない。

地形断面図



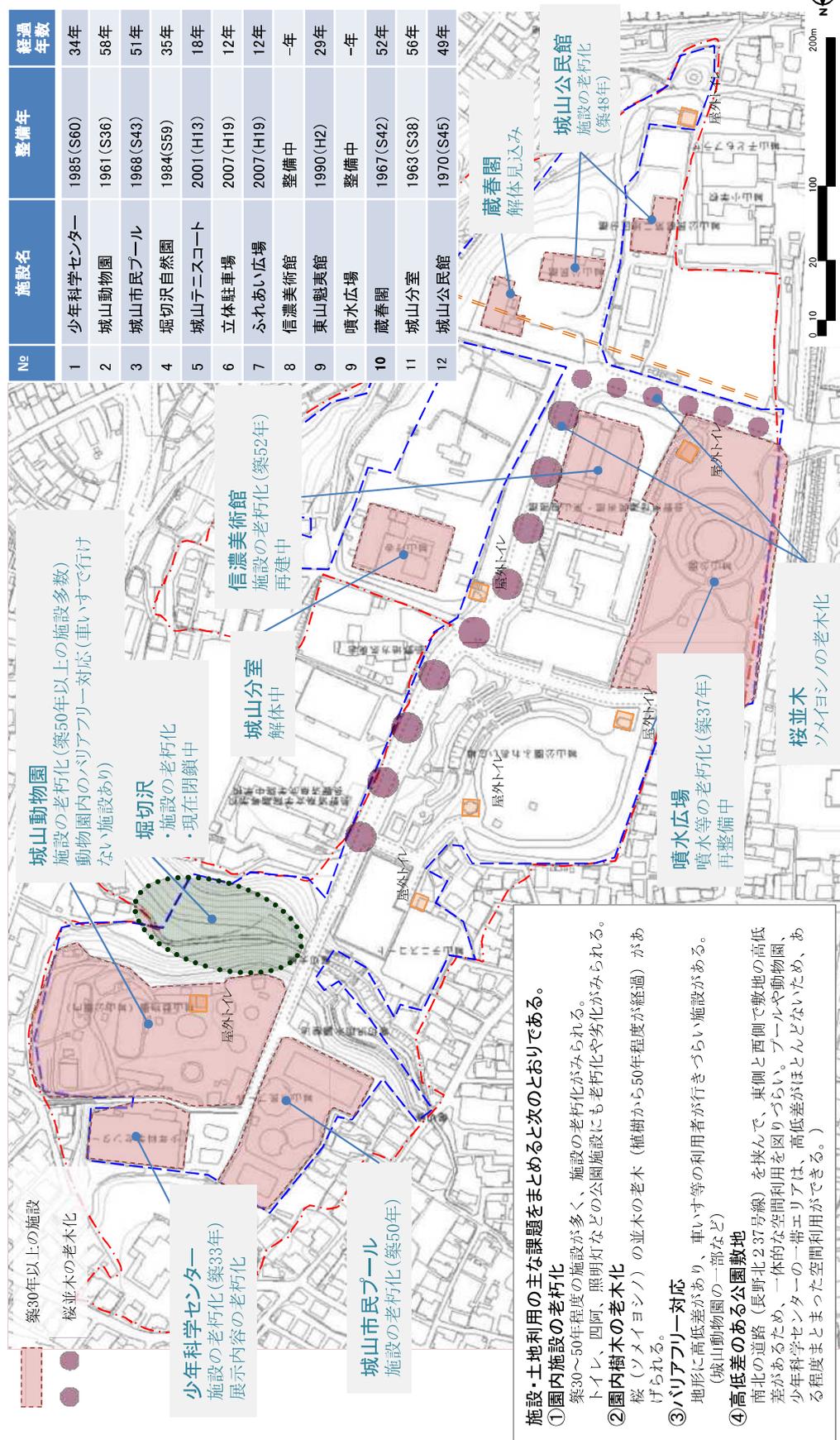
この地形断面図は、国土地理院ウェブ地図にて作成



城山公園噴水広場基本設計の設計図書から抜粋

④各施設の課題

公園内の多くの施設が築30年以上経過しており、施設の老朽化がみられる。また、桜の老木化も課題となっている。一部の施設ではバリアフリー化が必要な施設もある。



⑤公園利用者の動線

利用者動線の整理 (徒歩の視点) H30現在

利用者動線として想定されるのは次の5つでとなる。

- ①善光寺北側の駐車場からの動線
- ②善光寺北バス停からの動線
- ③善光寺本堂からの動線 (2系統)
- ④美術館の駐車場からの動線
- ⑤立体駐車場、動物園北の駐車場からの動線
- ⑥長野北122号線の周辺の駐車場からの動線

①善光寺北駐車場から

- ・善光寺北側の有料駐車場に停めてから長野信濃線を歩いて公園に入る動線
- ・善光寺北バス停でバスを降りて長野信濃線を歩く動線



城山公園バス停

公園沿いにあるバス停に上り線の乗降場所となっており、下り線側にはバス停はない。



③善光寺本堂から(2系統)

- ・善光寺から動線は2系統ある。
- ・善光寺本堂から善光寺東公園を通過して公園に入る動線
- ・善光寺本堂から城山公園入口交差点を渡る動線
- ・城山公園入口交差点には横断歩道橋が設置されている。



④美術館の駐車場から

公園内に美術館専用の駐車場が2箇所あり、主に美術館を利用する人は美術館専用の駐車場に停めてから美術館もしくは公園に入る。

東山魁夷館の駐車場



信濃美術館の駐車場



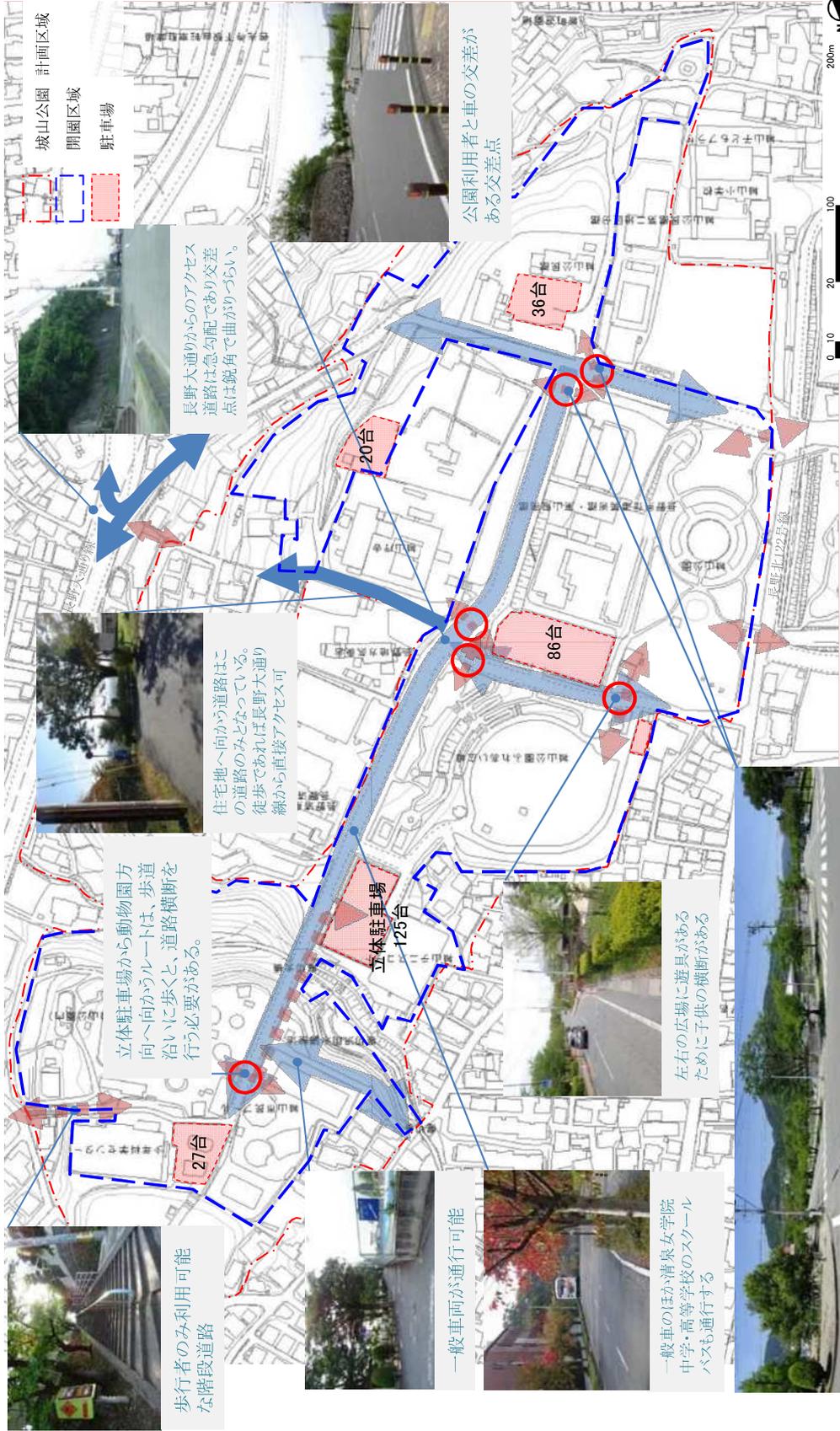
⑤立体駐車場等から

公園利用者のための無料駐車場内で24時間利用可能である。公園内で一番大きな駐車場であるため、この駐車場から各施設へ向かう動線が主動線と考えられる



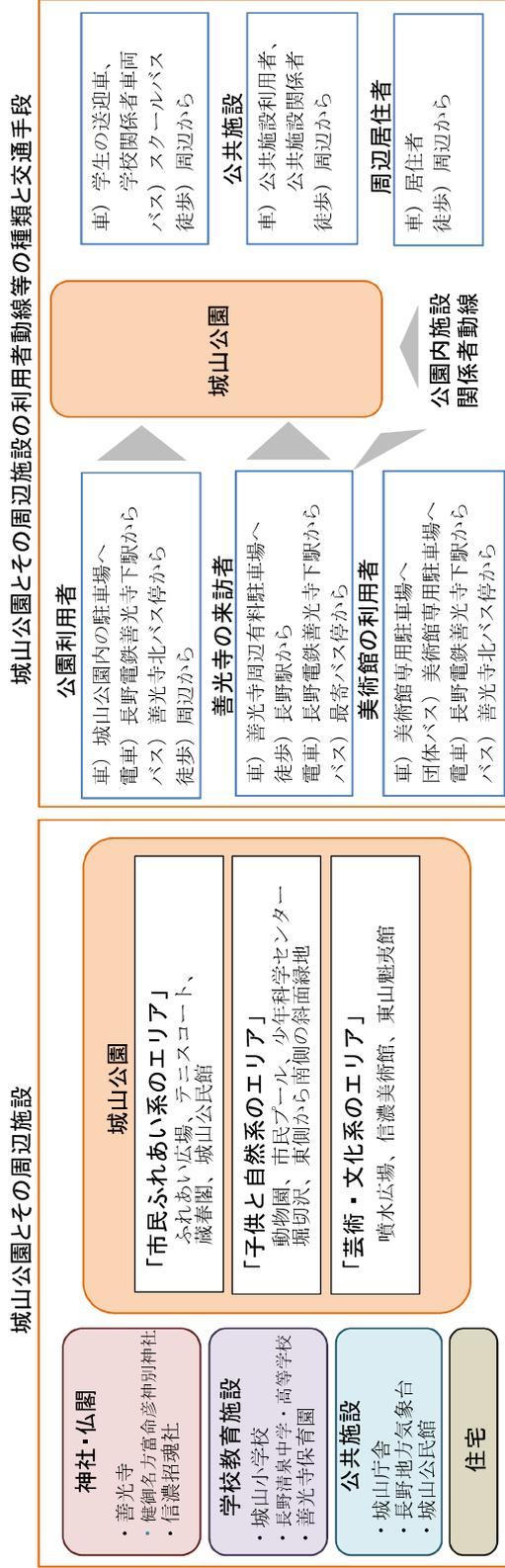
⑥城山公園へのアクセス動線

公園内の道路は一般道となっているため、公園利用車のほかに周辺施設の関連車両や一般車が通行する。また一部の道路は地域住民の生活用の道路になっている。長野大通りから公園へのアクセス道路は勾配が急であり、交差点の形状が不規則なため通行しづらい。



⑦利用者動線の整理

城山公園の周辺にある施設としては、善光寺のほか、学校教育施設、公共施設、住宅などがある。利用者の種類としては、公園利用者、善光寺の来訪者、美術館の利用者に分けられる。交通手段としては、徒歩、車、電車、路線バスが挙げられる。また、公園利用以外の動線として、学校教育施設、公共施設、周辺居住者があげられる。



■利用者動線の課題

A 歩行者の横断

公園を利用する際に、一般道を横断するため、公園内の移動時における安全性の確保が課題



B アクセシビリティが低い

少年科学センターや市民アール、動物園に車で行くルートは一つのみとなっており、たまたまの渋滞の原因にもなっている。また、長野大通りからのアクセス性も低い。

C 施設間の連続性

公園内を一般道路が走っているため、施設の連続性が絶たれて、公園の一体感がなくなっている。



D 駐車場の配置

駐車場の分散しており、利用者は使いづらくなっている。また、駐車場の台数も足りていない。美術館や公民館の駐車場は施設専用となっており、共有化がされていない。

E 周辺施設の生活道路

- ・公園周辺の居住者の生活道路となっている。(都市公園の区域内)
- ・学校通学の重要な通学動線となっている。
- ・長野地方気象台等の通動線となっている。
- ・代替道路や対応策を検討する必要がある。



4 巻末資料

①検討の経過

基本構想の策定にあたっては、学識経験者や各分野で活躍する代表者など、14名の委員と1名のオブザーバーで構成される城山公園再整備検討委員会（以下、委員会という）を設置した。

委員会は、長野市緑を豊かにする委員会を親会とした付属機関であり、長野市長の諮問に応じたものである。委員の任期は、平成29年4月1日から平成31年3月31日までの2か年としたが、任期の延長を行って令和2年3月31日の3か年としている。

委員会の所掌事項については、城山公園再整備検討委員会設置要綱によるものとし、城山公園全体の基本構想のほか、芸術と文化のゾーン（噴水広場）の基本構想策定も含んでいるが、噴水広場については、平成30年2月に一部答申をしている。

城山公園再整備検討委員会の名簿

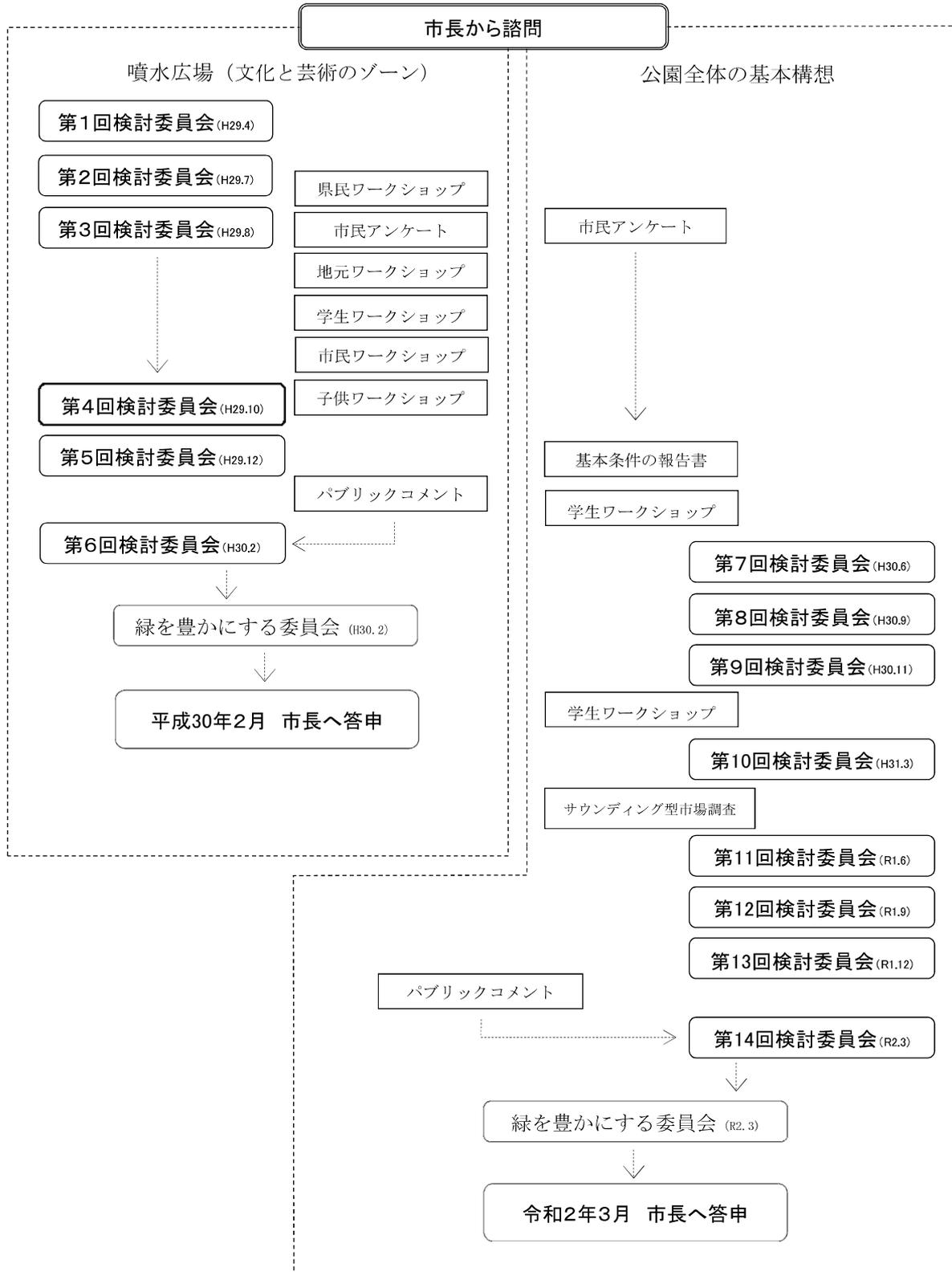
敬称略、五十音順

役職名は委嘱当時

区分	分野	氏名	役職名	期別	
委員	学識経験者	造園	佐々木 邦博	信州大学 農学部 教授	1
		都市工学	◎松岡 保正	長野工業高等専門学校 環境都市工学科 名誉教授	1
		都市工学	宮入 賢一郎	長野市緑を豊かにする委員会委員 (長野工業高等専門学校 客員教授)	1
		造園	山本 裕美	林業笠原造園(株) 樹木医 (ながの緑育協会アドバイザー)	1
	民間団体	商工団体	○北村 正博	長野商工会議所 会頭	1
	地区代表	地区	寺島 頼利	第二地区住民自治協議会 (箱清水区 区長)	1
	関係団体	地区	北村 眞紀	長野清泉女学院中学・高等学校 教諭	1
		善光寺	若麻績 宗亮	善光寺事務局営繕部 部長	前任
			松田 信光		後任
	行政機関	都市 まちづくり	藤池 弘	長野県建設部 都市・まちづくり課 課長	前任
			猿田 吉秀		後任
		文化政策	日向 修一	長野県県民文化部文化政策課 信濃美術館整備室 室長	1
		建設	竹内 敏昭	長野県長野建設事務所 所長	前任
			新家 智裕		後任
下里 巖			後任		
公募	公募	小澤 賢司	公募委員	1	
	公募	清水 秀幸	公募委員	1	
	公募	山上 絹代	公募委員	1	
オブザーバー	城山公園 指定管理者	青木 和彦	NPO法人長野市環境緑化協力会 会長	1	

◎委員長 ○副委員長

②基本構想策定のフロー図



③城山公園再整備検討委員会設置要綱

(名称)

第1 本会は、「城山公園再整備検討委員会」(以下「委員会」という)と称する。

(目的及び設置)

第2 城山公園の再整備に向けて必要な基本事項について検討するため、委員会を設置する。

(所掌事項)

第3 委員会は、前条の目的を達成するため次の事項について所掌する。

- ・基本構想
- ・基本ゾーニング
- ・長期計画
- ・芸術と文化ゾーンの基本構想
- ・その他公園整備に必要な事項

(組織及び構成員)

第4 委員は学識経験者、民間諸団体、一般公募、その他市長が適当と認める者で14人以内で組織する。また、委員会には、委員のほかオブザーバー1人を置く。

- 2 委員及びオブザーバーは市長が委嘱する。
- 3 委員及びオブザーバーの任期は委嘱の日から3年間とする。
- 4 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5 委員会には委員長を置き、委員長は委員の互選により決定する。

- 2 委員長は委員会を統括する。
- 3 委員会に副委員長を置き、委員長が委員の中から指名する。
- 4 委員長に事故等があるときは、副委員長がその職務を代理する。

(会議)

第6 委員会の会議(以下「会議」という)は委員長が招集し、委員長が議長となる。

- 2 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。
- 3 委員は、職務上で知り得た情報を漏らしてはならない。職を退いた後も同様である。
- 4 委員が会議に出席できないときは、情報保守の見地から代理出席を認めないものとする。

(庶務)

第7 委員会の庶務は長野市都市整備部公園緑地課で行う。

(雑則)

第8 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関して必要な事項は別に定める。

附則

(施行期日)

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

この要綱は、平成31年4月1日から施行する

城山公園再整備基本構想 策定 令和2年3月

発行 長野市
編集 長野市都市整備部公園緑地課
〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613番地
直通電話 (026) 224-7284

ファクシミリ (026) 224-5111
Eメール kouen@city.nagano.lg.jp
ホームページ <http://www.city.nagano.nagano.jp/soshiki/kouen/>